平成３年度版

三重県こころの健康センター所報

（精神保健センター）

三重県こころの健康センター

はじめに

我々のセンターも、昭和61年の仮オープン（県保健予防課の分室）から7年、平成元年の出先機関としての独立から4年が経過しました。

十年一昔というように、7年は決して短かい期間ではありませんが、振り返ってみると、この7年はまたたく間に過ぎたような気がします。社会的にも、また保健－医療の分野でも大きな変化の時だったからでしょうか。

特にこの間、昭和63年に精神衛生法が精神保健法に改正され、それに伴って精神保健－医療のあり方もしだいにその姿を変えてきました。

三重県の地域精神保健に限ってみても、この7年間は大きな節目の時だったように思われます。

保健所の精神保健活動では、保健婦の大多数が精神保健相談員の資格を取得するとともに、その相談、訪問指導件数が大幅にふえてきております。保健所ディケアも、11保健所のうち8保健所が実施するようになりました。保健所によっては、管内で精神保健についての連絡協議会を運営し始めたところもあります。

職業リハビリテーションの分野では、昭和62年より通院患者リハビリテーション制度が開始されました。また最近では、救護施設による通所事業や、障害者職業センターを中心とした就労ゼミの試みも始まっております。

地域家族会では、桑名・伊勢の両家族会が再建されるとともに、小規模作業所設立への動きがいっそう活発になってきました。四日市・鈴鹿に続いて、松阪、伊勢、上野でも試行が進められています。社会復帰施設としては、四日市「四季の里」で、援護寮、通所授産所が運営されるようになりました。

我々のセンターでも、平成元年度より「ボランティア教室」を開講し、平成4年度までに約120名の方が受講されました。平成4年度秋には、これら受講者のうちの熱心な有志の方々を中心として、精神保健ボランティア「三重てのひらの会」が結成され、在宅精神障害者の支援をめざして、その活動が始まっております。また平成3年度からは、在宅精神障害者とその地域支援者が一同につどう「こころの健康フェスティバル」を開催することになりました。平成3年度は県下の各地域より200名が参加し、互いの交流を深めております。

このように在宅精神障害者の地域サポートという大きな目標に向かって、さまざまな活動が地域に点々として誕生してきたのが、この7年間であったように思われます。

今後はこれらの諸活動をさらに充実させるとともに、いっそうメニューを増やし、点と点とを自在につなぎ合わせて緊密なサポート・ネットワークを作り上げる必要があるのではないでしょうか。医療とのさらなる連係も欠かせません。センターとしても、こういったネットワークの調整役、あるいは組織役として、その一端を担えたらと思っております。

さいごになりましたが、精神保健についてさらに広くご理解を頂き、なおいっそうのご支援をお願い申し上げます。

平成5年新春

三重県こころの健康センター
所長 原田雅典

目　　次

はじめに

Ⅰ．こころの健康センター概要 …… 1
　1．沿　革 …… 1
　2．業　務 …… 1
　3．施設の概要 …… 2
　4．組織及び職員 …… 4

Ⅱ．こころの健康センターの活動 …… 5
　1．こころの健康センター業務 …… 5
　（1）技術指導援助 …… 5
　（2）教育研修 …… 9
　（3）広報啓発 …… 17
　（4）調査研究 …… 25
　（5）協力組織の育成 …… 37
　（6）心の健康づくり推進 …… 49
　（7）精神保健相談 …… 63

Ⅲ．こころの健康センター図書目録 …… 71

Ⅳ．精神保健啓発用パネル一覧 …… 89

Ⅰ．こころの健康センター概要

1．沿　　革

2．業　　務

3．施設の概要

4．組織及び職員

1．沿　革

○　昭和61年５月

三重県こころの健康センター（精神保健センター）は精神保健法第７条の規定に基づき、地域精神保健活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟１階（津市桜橋３丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

初代所長　原田雅典氏就任。

精神科医師１名、看護婦１名、保健婦１名、事務職１名、計４名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）２名配置される。

○　昭和62年４月

精神科ソーシャル・ワーカー（ＰＳＷ）が始めて配置される。

○　昭和63年10月

三重県久居庁舎（久居市明神町2501-１）の完成に伴い同１階に移転する。

○　平成元年４月

県の出先機関として独立

心理技術者（CP）が始めて配置される。

2．業　務

当こころの健康センターは、「精神保健センター運営要領」（衛発第194号厚生省公衆衛生局長通知、昭和44年３月24日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

(1)　技術指導援助

地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導ならびに技術援助を行なう。

(2)　教　育　研　修

保健所で精神保健業務に従事する職員（精神保健担当者、保健婦等）に専門的研修と技術指導を行うほか、関係諸機関の職員には、教育訓練を行い、関係職員の技術的水準の向上を図る。

(3)　広　報　啓　発

一般住民に対する精神保健知識の普及啓発を行うとともに、保健所が行う広報普及

活動に対して専門的立場から指導と援助を与える。

(4) 調 査 研 究

地域精神保健活動を推進するために、必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備する。

(5) 協力組織の育成

地域精神保健の向上を図るために、精神医療施設や保健所その他の関係諸機関を単位としてつくられた協力組織の育成を図るとともに、他方、都道府県単位の組織を育成強化することに努め、地域精神保健活動に対する住民の協力参加や各種社会資源の活用を円滑に行う。

(6) 心の健康づくり推進

近年の社会生活環境の複雑化に伴い県民各層の間において、ストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。これらの精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより住民の精神的健康を図る。

(7) 精神保健相談

保健所並びに関係諸機関が取り扱った事例のうち、複雑又は困難なものにつき実施する。また、これらのほか、一般住民の心の健康の保持、向上のために専門的な立場から相談指導を行う。

3．施設の概要

（1）所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446－34　三重県津庁舎保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501－1　　三重県久居庁舎1階

（2）施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津庁舎保健所棟1階　　1室　52.9㎡

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア　敷地面積（久居庁舎）　11,617.29 ㎡

イ　建物面積（本館棟）　延床面積　5,484.50

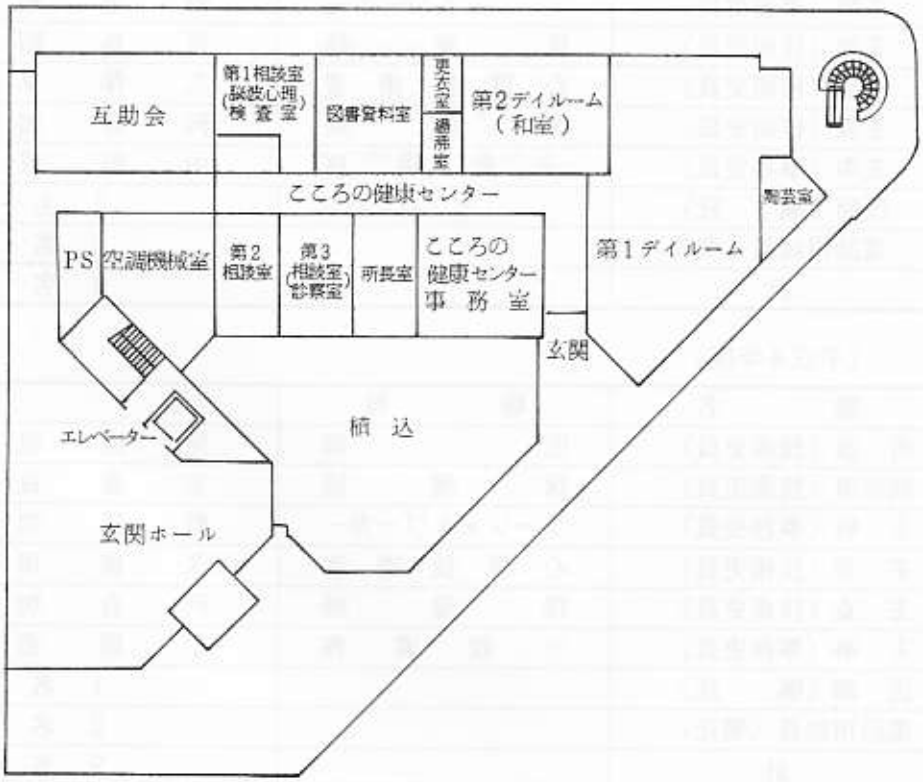
ウ　建物構造（本館棟）　鉄筋コンクリート造４階建、一部５階建

エ　当センター占有面積　723.0

オ　各室面積

事務室（電話相談室、所長室）	65.2	第１デイルーム	140.4
第１相談室（脳波、心理検査室）	30.8	第２デイルーム（和室）	44.8
第２相談室	23.9	陶芸室	11.3
第３相談室（診察室）	26.5	更衣室、湯沸室	12.0
図書資料室	37.0	各室面積　計	391.9

三重県こころの健康センター平面図



4．組織及び職員

所掌事務

- 所　長
  - 事務部門
    - 庶務一般
    - 職員の服務
  - 業務部門
    - 技術指導援助
    - 教育研修
    - 広報啓発
    - 調査研究
    - 協力組織の育成
    - 心の健康づくり推進
    - 精神保健相談

職員構成

〔平成３年度〕

職　　名	職　　種	氏　　名
所長（技術吏員）	医　　師	原　田　雅　典
主幹（事務吏員）	ソーシャルワーカー	野　里　知　巳
主幹（技術吏員）	保　健　婦	青　島　昭　子
主査（技術吏員）	心理技術者	久　保　早百合
主査（技術吏員）	保　健　婦	河　合　加代子
主事（事務吏員）	一般事務	中　野　成　則
医師（嘱　託）		1　名
電話相談員（嘱託）		2　名
計		9　名

〔平成４年度〕

職　　名	職　　種	氏　　名
所　長（技術吏員）	医　　師	原　田　雅　典
副参事（技術吏員）	保　健　婦	安　藤　良　子
主　幹（事務吏員）	ソーシャルワーカー	野　里　知　巳
主　査（技術吏員）	心理技術者	久　保　早百合
主　査（技術吏員）	保　健　婦	河　合　加代子
主　事（事務吏員）	一般事務	小　堀　義　明
医　師（嘱　託）		1　名
電話相談員（嘱託）		2　名
計		9　名

Ⅱ．こころの健康センターの活動

１．こころの健康センター業務

（１）技術指導援助

（２）教育研修

（３）広報啓発

（４）調査研究

（５）協力組織の育成

（６）心の健康づくり推進

（７）精神保健相談

（１）技術指導援助

地域における精神保健活動を推進するために、保健所ならびに関係諸機関に対し、専門的立場から技術指導援助を行っている。

平成３年度の技術指導援助回数は、総計488回であり、平成２年度428回よりも14％増えており、元年度の約２倍近い増である。

このうち、保健所に対する技術指導援助は181回であり、昨年より１割弱減少した。指導内訳は事例検討会、デイケアへの参加指導、受け持ちケースや精神保健業務に対するコンサルテーションとなっている。（表１）

また関係諸機関に対しては、その要請に応じて研修会の講義、講演、ケースコンサルテーションを行っているが、平成２年度の229回に比べると309回と３割以上の増加があり、関係職域の拡大や、ニーズの高まりと共に今後は更に増加するものと思われる。（表３）

表１．平成３年度　保健所への技術指導援助実施状況

保健所	実施回数	参加対象者延数	技術指導援助回数					指導内訳		
			医師	ソーシャルワーカー	保健婦A	心理技術者	保健婦B	事例検討会	デイケア	その他
桑名	7回	106名	3回	回	2回	1回	2回	3回	回	4回
四日市	19	146	7	2	5	4	6	3	4	12
鈴鹿	19	204	2	3	6	3	6	4	9	6
津	22	79	6	3	1	2	12	3	1	18
久居	7	28	3			4	2	2		5
松阪	31	207	2	3	4	6	16	2	7	22
伊勢	10	96	5	1	1	2	1	4	1	5
志摩	16	73	7		8	2	4	6		10
上野	30	247	9	2	11	3	5	8	4	18
尾鷲	14	326	5	1	3	3	3	4		10
熊野	6	73	1	1	1	2	1	4		2
合計	181	1,585	50	16	42	32	58	43	26	112

表2．平成3年度　事例検討会の事例名

保健所名	実施月日			事　　例
桑　　名	3	5	29	アルコール依存症（疑）の夫をかかえている家族への対応について
	3	7	31	幻覚妄想状態にある中年女性への支援
	3	10	30	母と共依存的な関係にある神経症の事例
四　日　市	3	4	24	うつ状態にある父親からの相談事例
	3	7	24	仕事に出られないK夫
	3	9	25	姉の死後引きこもりが続いている（うつ病？）ケース
鈴　　鹿	3	9	24	支援者の見つからないケースにかかわって
	4	1	23	一人暮らしであり、支援者の少ないケースにかかわって
津	3	11	26	家庭での居場所がないため、自立を決意した分裂病者の援助について
	4	2	25	仕事が継続できず借金をくり返す分裂病ケースへの支援
久　　居	3	8	20	アルコール依存症の父をもつ適応障害の青年へのかかわり
	4	2	18	家庭内暴力の息子を持ち、周囲への依存の強い家族にかかわって
松　　阪	3	7	30	訴えの多い結核性股間節炎の患者について
		〃		仕事をしたいが、頭が空白で行動できなくなっている青年
	3	11	12	近隣や開業医へ迷惑行為をくり返す妄想型分裂病のケース
伊　　勢	3	11	26	飲酒してデイケアに来るケース
	4	2	4	ひきこもりがちで、意欲のないケースへの支援について
志　　摩	3	7	4	暴力行為を伴う精神遅滞児への援助
	3	9	5	家族から入院目的でのみ相談のあるケースへの援助
	4	2	6	病識欠如から服薬できないケースへのかかわり
上　　野	3	6	7	糖尿病を合併した、1人暮らしのアルコール依存症者へのかかわり
	3	7	5	デイケア参加勧奨を通して
	3	10	2	問題行動が多く、地域から敬遠される母子をめぐって

保健所名	実施月日	事　　例
上　　野	3　12　6	父子共に精神的な問題を持ちながら生活するケースにかかわって
	4　1　29	両親が精神疾患をもつ家族への支援を行って
	4　3　4	身辺自立のできない精神障害者と家族の理解を求めて
尾　　鷲	3　6　18	変形性股間節炎を合併した分裂病のケース
	3　10　15	アルコール依存症と思われるケースへ断酒会入会を勧めて
	3　12　17	被害妄想のある分裂病患者へのかかわり
	4　2　18	分裂病患者の社会復帰に向けての支援
熊　　野	3　5　31	病児をかかえ、夫との不仲を訴えつづける不穏状態の母にかかわって
	〃	ねたきりの母を介護している不安定な娘へのかかわり
	〃	精神病の息子を受けとめきれない父へのかかわり
	3　7　30	長い病歴があり頻回に電話相談をくり返す中年女性の生活援助をめぐって
	3　11　8	家庭内暴力の息子と家族へのかかわり
	〃	ひとり暮らしの痴呆老人世帯への援助
	〃	病弱な息子を持つ神経症性うつ病の母へのかかわり

表3　平成3年度　関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	職種別援助回数				援助内容		備考
		医師(1名)	ソーシャルワーカー(1名)	保健婦(2名)	心理技術者(1名)	ケース援助	職員精神保健指導	参加人員
福祉機関	41	6	4	14	17	15	26	387
医療機関	43	25		5	13	21	22	119
行政機関	59	38	3	14	5	5	54	220
教育機関	69	5	1	15	48	58	11	242
市町村	16	3	1	7	6	9	7	128
学生教育実習	35	33	4	4			35	1,493
その他	44	10	1	24	11	14	30	労働4/4 司法3/3団体11/49 その他26/35
合計	307	120	14	83	100	122	185	2,680

実施回数
参加人員

（2）教　育　研　修

ア．研　修　会

イ．学生等、教育実習等

昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健衛生機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。三重県における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から、保健衛生機関にとどまらず保健衛生関係外の関連諸機関を対象とした研修を実施し3年を経過した。

平成3年度も昨年同様8本の柱で実施した。福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健推進のため、関連のある機関との連携も教育研修を機として深まってきていると思われる。

また、見学・実習も増加した。この見学、実習が精神保健活動への理解を深める機になればと願っている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表1のとおりである。また、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

表1．平成3年度教育研修実施実績

ア．研修会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健担当者研修会	平成3年5月15日（木）	市町村福祉・保健衛生、県福祉事務所、保健所の関係者	名 29
精神保健事例検討会	平成3年9月4日（水）	教育関係者	27
児童(青年)精神保健研修会	平成3年7月18日（木）	福祉、教育、医療、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	180
酒害保健研修会	平成3年4月11日（木） 11月2日（土）	福祉、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	140
地域精神保健研修会	平成4年3月19日（木）	福祉、教育、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	143

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
精神保健専門講座（精神保健相談員継続研修会）	平成3年6月27日（木） 9月11日（水） 11月21日（木） 平成4年1月14日（火）	市町村、保健、福祉関係者、県福祉事務所、保健所関係者	308
老人精神保健研修会	平成4年2月13日（木）	福祉、医療、保健衛生、老人施設、その他の関係者	147
社会復帰指導者研修会	平成3年5月～ 平成4年3月 月曜日　年　34回	保健所精神保健担当者	124

計　45回　1,098名

イ．学生等、教育実習等

受講者名	実施回数	受講者数
三重臨床精神医学研修会	4　回	29名
三重大学精神神経科新入局員	1　回	5
三重県立看護短期大学1学年生	24　回	1261
三重県立看護短期大学専攻科 地域看護学専攻生	3　回	60
三重大学医学部専門課程4回生	3　回	107

計　35回　1,462名

（ア）新任精神保健担当者研修会

精神保健の概要を理解すると共に精神疾患の基礎的な知識を習得することにより、精神保健活動の推進を図ることを目的とした。

日　　程	内　　容
平成３年５月15日（水） 10：00～15：30	Ⅰ．こころの健康センター事業概要 センター主幹　野里　知巳 Ⅱ．講義 ①　精神保健のあらまし センター所長　原田　雅典 ②　精神保健相談のすゝめ方 センター主査　久保早百合 ③　地域における精神保健活動 センター主幹　青島　昭子

（イ）精神保健事例検討会

不登校の事例を通して高校生の持つ問題を知り、学校保健における精神保健活動のあり方について考える。

日　　程	内　　容
平成３年９月４日（水） 13：30～16：30	事例名 「登校拒否」―友人関係でうまくゆかない子 事例提供者 県立上野農業高等学校　上野　礼子 助言者 北勢福祉事務所長　重盛　眞大

（ウ）児童（青年）精神保健研修会

児童、思春期の問題行動はその家族関係に起因するものも少なくない。

思春期の心の動きと家族の関係を中心にこの時期の子ども達に関わりを持つ関係者が、思春期の心のゆれをより深く理解し、適切な対応ができることを目的とした。

日　　程	内　　容
平成3年7月18日（木） 13：20～15：30	講演 「子育て、子離れ」 講師 大阪教育大学教育学部助教授　　服部　祥子

（エ）酒害保健研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。アルコールに起因する問題は多岐に亘り、多くの家族崩壊をきたしている。アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者がその病理について正しく理解することが大切である。アルコール依存症の予防と早期治療をめざしてそのあり方を考えることを目的とした。

第1回

アルコール依存症の早期治療のためには内科医、臨床医との連携が重要となる。関係者が内科医、臨床医との正しい連携の持ち方について共に学ぶことを目的とした。

日　　程	内　　容
平成3年4月11日（木） 14：00～16：00	講演 「アルコール問題と内科医との連携のあり方」 講師 国立療養所久里浜病院副院長　　高木　敏

第2回

アルコール依存症の予防と早期治療をめざして各関係者から研究報告を行った。

日　　程	内　　容
平成3年11月2日（土） 10：00～15：00	講演 「アルコール依存症と内科医の責任」 講師 県立一志病院内科医長　遠藤太久郎 指定発言 白塚診療所副所長　西山　呂伸 研究報告 職場別（工場勤務者、地方公務員、建築関係者）に見るアルコール性肝障害3人の報告 保健所と福祉事務所におけるアルコール対策 久居保健所保健婦　野呂千鶴子 四日市市福祉事務所　田中　幸雄 「地域に向けた病棟の取り組み」 県立高茶屋病院アルコール病棟副婦長　宮園美沙子 事例検討 保健婦、福祉課、福祉事務所、病院の各機関より報告

（オ）地域精神保健研修会

精神障害者の社会復帰をめざして地域では多様な活動が展開されている。また、社会情勢の変化等による「心の病い」も増加傾向にある。

精神医療から精神保健へと変遷してきたその流れを知り、広く心の健康づくりをめざして将来精神保健のあり方を考えることを目的とした。

日　　程	内　　容
平成４年３月19日（木） 10：00～12：00	講演 「精神保健、昨日、今日、明日」 講師 元東京大学教授　　壷　　弘

（カ）精神保健専門講座（精神保健相談継続研修会）

複雑化する社会の中で生活することは障害を持つ者にとってその障害は大きなハンディキャップとなっている。地域で生活することの困難さを少しでも軽減することができるよう関係者がその現状を理解する。

また、その社会の中で家族関係の歪み等から思春期特有の「心のゆれ」を呈する者も多い。これらのことから「思春期とは」「家族とは」について学び、障害者、思春期の危機に適切な支援ができることを目的とした。

（キ）老人精神保健研修会

高年令人口が飛躍的に増加し、寝たきり、痴呆などの要介護老人が増加している地域社会で、これに係る関係職員が老年期の痴呆性疾患について学び、老人精神保健のあり方を考えることを目的とした。

日　　程	内　　容
平成４年２月13日（木） 13：30～15：30	講演 「老年期の痴呆性疾患」 講師 三重大学医学部神経内科教授　　葛原　茂樹

（ク）社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて

精神保健専門講座

	日　時	午前（10：00～12：00）	午後（13：30～　　）
第一回	平成３年６月27日（木）	講演 「精神分裂病の生活特徴とかかわりの留意点」 講師 国立療養所榊原病院副院長　稲地　聖一	事例検討会 事例名 「アルコール依存症者の断酒継続へのかかわり」 事例提供者 志摩町　浅原　万寿 南勢志摩福祉事務所　関岡　武久 志摩保健所　増田　伸子 助言者 県立一志病院内科医長　遠藤太久郎
第二回	平成３年９月11日（水）	講演 「精神障害者の地域サポートについて」 －諸制度を中心に－ 講師 四日市日永病院ＰＳＷ　市川　正之	講演 「地域における精神障害者の人権」 講師 三重弁護士会（人権擁護委員長） 加藤　謙一
第三回	平成３年11月21日（木）	講演 「思春期の問題行動」 講師 県立小児心療センターあすなろ学園医師 高山　学	グループワーク 「社会資源の活用について」 こころの健康センター主幹　青島　昭子
第四回	平成４年１月14日（火）	講演 「思春期の家族関係」 講師 小児心療センターあすなろ学園医療技術室長 久保　義和	事例検討会 事例名 「妄想を抱え１人で暮らすケース」 事例提供者 伊勢保健所 山際　弓子

学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ること目的とした。

実施方法は3ケ月を1クールとして年3回実施した。

各回の受講者は次のとおりである。

	第一回	第二回	第三回
	平成3年5月～7月	平成3年10月～12月	平成4年1月～3月
受講者	桑名　小川恵子 四日市　鳥飼千佳代 鈴鹿　紬　邦子 松阪　植木直子	志摩　吉田由里子 上野　岡田千香 尾鷲　萩下睦子 熊野　大西志保	津　加藤みゆき 久居　田中明子 伊勢　寺添千恵子

また、受講者に対してのプログラムは次のとおりである。

社会復帰指導者研修会プログラム

開催回数 / 開催月 / 内容	第一回	第二回	第三回
	平成3年 5月～7月	平成3年 10月～12月	平成4年 1月～3月
オリエンテーション	1単位	1単位	1単位
集団指導実習	10	9	11
生活技術指導実習	6	6	8
作業指導実習	3	2	2
専門講義	4	4	4
計	24	22	26

＊　1単位4時間とする。

（3）広　報　啓　発

ア．パンフレット

イ．パネル

ウ．こころの健康センターだより

エ．見学者の受け入れ指導

オ．講演会、講議、座談会、連絡会等

今年度は県民への精神保健の知識の普及を図る目的で下記の事業を行った。

ア．パンフレット

今年度は思春期の精神保健パンフレットとして「思春期のこころの健康」を作成、各関係機関に配布した。また、昨年度作成した「老年期の心の健康」が好評で、講演等にて使用するため増刷した。

表1．平成3年度パンフレット発行状況

	発行部数　（部）
思春期のこころの健康	2，000
老年期の心の健康	3，000

イ．パネル

一般住民に対する精神保健の啓発に昨年度よりパネルを作成しているが、今年度はライフサイクルシリーズとして老年期を10枚作成した。

表2．平成3年度発行パネル一覧表

シリーズ名	テーマ	No.
Ⅳ．ライフサイクル老年期	①老年期の心と体の特徴	H3－No.21
	②老年期の心の病（精神障害）	22
	③痴呆とは（1）	23
	④痴呆とは（2）	24
	⑤仮性痴呆	25
	⑥痴呆の予防	26
	⑦痴呆の介護（1）	27
	⑧痴呆の介護（2）	28
	⑨痴呆はどうして起こる	29
	⑩健やかなる老後	30

ウ．こころの健康センターだより

今年度は３回（No.14、No.15、No.16）発行した。

内容は一覧表のとおりであるが、No.14では、社会復帰施設、共同作業場。No.15では通院患者リハビリテーション事業について、それぞれ特集をした。No.16では、心の健康づくり推進事業の一環として行った「こころの健康づくりフェスティバル」の特集をした。

表３．平成３年度こころの健康センターだより年間発行一覧表

発行年月日	内　　容	執　筆　者
No.14 （平成３年 ６月30日）	精神保健相談機関としてのセンター	こころの健康センター 所長　原　田　雅　典
	「わかば共同作業所」「四季の里」を訪問して	こころの健康センター
	夢が現実となる	わかば共同作業所 所長　伊　藤　博　子
	暮らしています、四季の里で	スマイルハウス 施設長　増　田　令　子
	平成３年度教育研修計画	こころの健康センター
	平成３年度教室連絡会議等計画	〃
	私の心の健康法	芹の里老人保健施設 施設長　大　北　典　史
	家族会通信	こころの健康センター
	ボランティア通信	〃
No.15 （平成３年 10月30日）	精神保健とＱＯＬ	三重県保健環境部長 藤　崎　清　道
	通院患者リハビリテーション事業について	松阪保健所保健予防課 西　川　　明

発行年月日	内　　容	執　筆　者
№15 （平成３年 10月30日）	通院患者リハビリテーション事業と保健所の役割	津保健所保健予防課 滝　川　史　人
	社会適応訓練で思うこと	通リハ協力事業所（株）松阪ファーム 社長　安　部　道　夫
	病院からみた三重県通院患者リハビリテーション事業	県立高茶屋病院医療社会室 山　嵜　晴　彦
	通院患者リハビリテーション事業協力事業所紹介	こころの健康センター
	私の心の健康法	精神保健ボランティア 辻　村　知　身
	家族会通信	こころの健康センター
	ボランティア通信	〃
№16 （平成４年 ２月25日）	アメリカにおける精神障害者のリハビリテーション	県立高茶屋病院 副看護婦長　長谷川　雅　美
	こころの健康づくりフェスティバルを開催して	こころの健康センター
	こころの健康づくりフェスティバルに参加して	堤　　啓　次
	こころの健康づくりフェスティバルに参加して	鈴鹿保健所保健予防課 森　川　訓　吉
	こころの健康センターに来て	こころの健康センター 精神科医師　小　川　理恵子
	私の心の健康法	病院事務職員 菊　地　　悟
	家族会通信	こころの健康センター
	ボランティア通信	〃

エ．見学者の受け入れ指導

今年度は医療関係機関からの見学者がほとんどで、センター事業を理解していただくよい機会であった。

表4．平成3年度見学者

計２０９名

見　学　者	実　施　回　数	人　　数
三重大学精神神経科新入局員	1	5
三重県立看護短期大学専攻科 地域看護学専攻生	3	60
三重大学医学部専門課程4回生	3	107
その他	13	37

オ．講演会、講義、座談会、連絡会等

精神保健に関する知識の普及、啓発を目的に各関係機関からの依頼により実施した。

今年度の講演、講義等の実施回数は26回で対象者は1487名となっている。内容的には、ライフサイクルにおけるこころの健康、職場における精神保健、精神障害者の社会復帰に関することなど内容は幅広いが、その中でも思春期に関する内容が目立ち、現代社会が持っている問題の一端が表われている。

また、依頼先も保健所、行政機関、市町村、教育機関、家族会等多方面であるが内容との関連から学校から要請が増加しているのが特徴である。今後もこの様な傾向が予想される。

表5．平成3年度　他機関から依頼の講演会、座談会、連絡会議等

月日	名称	内容	対象者	場所	主催	派遣者
H3 4・14	楠町母子寡婦福祉会大会	講演「相談の中で親として感じること」	楠町母子寡婦福祉会会員 役場職員　30名	楠町役場 大会議室	楠町母子寡婦福祉会	保健婦
5・29	デイケア検討会	講義「デイケアにおける評価について」	保健所職員 12名	鈴鹿保健所 衛生教育室	鈴鹿保健所	保健婦
6・23	三重県子育て インストラクター養成講座	グランドテーブル　フォーラム 「こどもの心のケア」	子育てインストラクター 受講者　84名	久居市 中央公民館	三重県教育委員会 生涯学習課	保健婦
6・25	平成3年度 精神保健事務担当者会議	講義「平成3年度こころの健康 センター事業について」	保健所職員 精神病院職員　51名	賢島別館会議室	三重県 保健予防課	精神科ソーシャルワーカー
7・1	教育相談研修会	講演「登校拒否とその具体的な 対応のあり方」	津東高等学校教諭 40名	津東高等学校	県立津東高等学校	心理技術者
7・25	生活相談員研修会	講演「こころを健康に保つために」	生活相談員 市町村担当職員　30名	三重県人権啓発 センター	三重県人権啓発 センター	医師
8・29	平成3年度 小学校調理員研修会	講演「職場における人間関係について」 －婦人の心の健康－	小学校調理員 用務員　100名	四日市市総合会館 第一研修室	四日市市教育委員会	医師
9・4	伊勢保健所 デイケア家族懇談会	講演「障害者を持つ家族の役割」	保健所職員 家族　13名	県伊勢庁舎 第4会議室	伊勢保健所	精神科ソーシャルワーカー
9・6	伊勢市立宮川中学校ＰＴＡ 母親と女教師の会	講演「思春期の子ども」 －思春期心性について－	宮川中学校ＰＴＡ 会員　30名	宮川中学校 第一視聴覚室	伊勢市立 宮川中学校ＰＴＡ	心理技術者
9・12	熊野保健所管内 精神保健研修会	講演「子供の発達・心理とその対応」	市町村、福祉事務所 保健所職員　27名	熊野保健所 会議室	熊野保健所	心理技術者
9・26	平成3年度 相談員定例研修会	講義「こころの健康センター事業 について」	婦人相談所職員 委託相談員　16名	三重県婦人相談所	三重県婦人相談所	保健婦

月日	名称	内容	対象者	場所	主催	派遣者
H3 10・22	公立保育所 乳幼児部会研修会	講義「発達の遅れと親のかかわりについて」「こころの発達と親のかかわりについて」	保育所職員 31名	鈴鹿市立 神戸保育所	鈴鹿市公立保育所 乳幼児部会	保健婦
11・12	白子保育所保育参観	講演「こころをはぐくむ」	保育所園児の 父母、祖母等　70名	鈴鹿市立 白子保育所	鈴鹿市立白子保育所	保健婦
11・26	児童健全育成講演会	講演「悩める子どもの心理とその対応」	民生児童委員、学校関係者、保護者　100名	県身体障害者総合 福祉センター	中央児童相談所	医師
12・3	伊勢地域家族会結成大会	講演「こころの病をもつ人とともに」	家族会会員、保健・福祉関係職員　100名	県伊勢庁舎	伊勢地域家族会	医師
12・5	安全衛生管理責任者研修会	講演「職場におけるメンタルヘルス対策」	安全衛生管理責任者 80名	県松阪庁舎	三重県職員課	医師
12・5	准看護婦（士）研修会	講義「こころの健康」	県内医療施設の准看護婦（士） 130名	三重県看護 研修会館	三重県看護協会	保健婦
12・10	多度町教育振興会	講義「不登校児の事例について」 「センター事業について」	多度町小中学校 養護教諭　6名	こころの健康センター	多度町 教育振興会	心理技術者
12・12	地域精神保健研修会	講演「地域でのサポートシステムづくりについて」－全国及び県内の現状－	保健所、福祉、市町村、病院職員、ボランティア 43名	県松阪庁舎 大会議室	松阪保健所	医師
12・17	平成3年度 情緒障害児指導教室	講演「思春期の心性について」	民生児童委員、学校関係者、保護者 45名	県尾鷲庁舎 大会議室	紀州児童相談所	心理技術者
12・19	婦人部学習会	講演「こころの健康」 －ストレス対策－	県職労婦人組合員 30名	県津庁舎 津支部会議室	県職労 津支部婦人部	保健婦
H4 1・27	平成3年度 地域健康問題対策事業	講演「人と人とのふれあいの中で」 －心の健康とは－	住民、民生児童委員、福祉関係者 80名	海山町老人福祉 センター	尾鷲保健所	医師
2・12	平成3年度 地域健康問題対策事業	講演「人と人とのふれあいの中で」 －心の健康とは－	民生児童委員、老人会在宅栄養士 200名	尾鷲市中央公民館	尾鷲市 尾鷲保健所	医師

月日	名　　称	内　　容	対　象　者	場　　所	主　　催	派　遣　者
H4 2・24	平成3年度 地域健康問題対策事業	講演「人と人とのふれあいの中で」 －心の健康とは－	住民、民生児童委員、福祉関係者 80名	紀伊長島町 社会福祉会館	尾鷲保健所	医師
3・2	講演会	講演「こころの病をもつ人とともに」 －障害者と家族のための8カ条－	市町村、保健福祉関係者 住民、家族会会員 50名	桑名保健所	桑名地域家族会	医師
3・24	母子保健推進委員研修	講義「こころの健康センター 事業について」	母子保健推進委員 9名	こころの健康 センター	芸濃町	精神科ソーシャルワーカー

計　　26回　　1487名

（4）調　査　研　究

平成元年度より精神保健ボランティアを養成する目的で開催した「精神保健ボランティア教室」は今年度で3年目を迎えた。ボランティア教室修了者も既に100名ほどになり、その後の継続研修を積み重ねながら現在精神保健ボランティアとしての自主グループとして活動を始めている。

今年度、県内の病院、保健所、社会復帰施設、家族会等の精神保健団体に精神保健ボランティアの活用についての考えを聞き、今後の精神保健ボランティア教室運営と教室修了者のボランティア活動のよりよい方向性を探るために、精神保健ボランティアに関するアンケート調査を行った。

県内の施設、団体等57ケ所に別紙アンケートの記入を依頼し、42ケ所より回答をいただいた。（回収率73%）回答は①病院、②作業所・家族会、③保健所に分け、全体の結果とともに①、②、③それぞれのまとめも出した。アンケートの内容及びアンケート結果は次のとおりである。

精神保健ボランティアに関するアンケート

貴所（院）名（　　）

ご記入者名（　　職種　　）

該当するものに○印をつけてください。

（　　）内はできるだけ具体的にご記入下さい。

〔1〕貴所（院）では精神保健ボランティアにが必要ですか。

a，必要で現在活動してもらっている

人数、内容等簡単にお書き下さい。

b，必要であるが適当な人がいない

c，検討中

d，必要でない

その理由は何でしょうか。簡単にお書き下さい。

e，その他

〔2〕精神保健ボランティア以外のボランティアは導入されていますか。

a，導入している

ご感想がありましたらお書きください。

b，導入していない

d以外の方は下記の問いにお答え下さい。

〔3〕ボランティアにどんな活動を望まれますか。

活動内容を具体的にお書き下さい。

〔4〕ボランティア導入にあたってどんな条件が必要でしょうか。

（1）ボランティア個人の資質に関して

a，人柄

b，健康

c，精神保健に対する知識と理解

d，特技

e，その他（　　）

（2）導入に際して懸念されること

a，補償（保険等）

b，経費（実費、交通費等）

c，秘密保持

d，その他（　　）

〔5〕精神保健ボランティアに関することであればどんなことでも結構です。ご意見、ご希望、気がかりな点などお書き下さい。

ありがとうございました。

精神保健ボランティアに関するアンケート結果

調査内訳

①病院（25）〔単科精神病院12・総合病院精神科８・国立病院３・老人病院２〕

②作業所・家族会（６）

③保健所（11）

〔１〕貴所（院）では、精神保健ボランティアは必要ですか。

	① 病院 (%)	② 作業所 家族会 (%)	③ 保健所 (%)	計 (%)
a.必要で現在活動してもらっている	3 (12.0)	3 (50.0)	1 (9.1)	7 (16.7)
b.必要であるが、適当な人がいない	11 (44.0)	2 (33.3)	5 (45.4)	18 (42.8)
c.検討中	5 (20.0)		4 (36.4)	9 (21.4)
d.必要でない	2 (8.0)			2 (4.8)
e.その他	4 (16.6)	1 (16.7)	1 (9.1)	6 (14.3)
計	25 (100.0)	6 (100.0)	11 (100.0)	42 (100.0)

※ａの内容　①生け花・習字・文化祭・レクリエーション等

②手工芸・作業・調理・作品提供・車の運転

③デイケア

※ｄの内容　①急性短期入院加療なのでＰＳＷで対応可能

精神障害者の施設ではないので現在は必要でない

※ｅの内容　①機能障害者は心の葛藤大、今後必要

導入するとすれば趣味的なものか

まだ精神科がないので準備ができていない

③準備ができていないので活躍の場を提供できない

〔2〕精神保健ボランティア以外のボランティアは導入されていますか。

	① 病院 (%)	② 作業所 家族会 (%)	③ 保健所 (%)	計 (%)
a．導入している	10 (40.0)	2 (33.3)	1 (9.1)	13 (31.0)
b．導入していない	14 (56.0)	3 (50.0)	10 (90.9)	27 (64.3)
未記入	1 (4.0)	1 (16.7)		2 (4.7)
計	25 (100.0)	6 (100.0)	11 (100.0)	42 (100.0)

※ａの内容　①宗教団体が入っている　理髪師が低料金で理髪

行事への協力・大学生の協力・院内清掃・洗濯物の整理

売店の売り子・外来案内・編み物教室・盆踊り指導

バンド演奏・太極拳・ストレッチ・詩吟・木工

ボランティアの導入は適当なストレスと緊張をもたらしてよい

②行事への協力・手芸指導・生け花

③難病患者の介護

※ｂの内容　①過去に茶道をやっていた

〔3〕ボランティアにどんな活動を望まれますか。

複数回答

	活動内容（件）	
① 病院 総件数 (31)	a．特技・サークル活動等	ヨーガ、書道、革細工、陶芸、コーラス、カラオケ指導、園芸、手工芸、絵画、木工、音楽、模型、人形劇、学習、リズム運動、体操、華道、茶道、合唱（11）
	b．患者さんとのコミニュケーション	話し相手、家族のいない患者さんへの励まし、相談したい時聞いてもらう、家族関係の把握、痴呆老人との対話、健康な社会人と話ができるような関わり（9）
	c．介助、世話	行事の際の子供の世話、慢性疾患の機能障害児、精神発達遅滞児、脳性麻痺児のケア、老人の介護、入浴介助、食事介助（5）
	d．日常生活の援助	整髪、買い物、片付けの援助、散歩の相手（3）
	e．地域活動	社会復帰に結びつく受け皿づくり活動、自閉的な人に外へ出ていけるような援助（2）
	f．デイケアへの参加	デイケアへの参加（1）
② 家族会 作業所 総件数 （5）	a．会運営の援助	車での送迎、事務的な事、名簿づくり、機関紙の送付、月一回の会へのサービス（3）
	b．日常的な関わり	畑づくり、花づくり、食事づくり、作業の手伝い（2）
③ 保健所 総件数 (18)	a．デイケアへの参加	デイケアへの参加 スタッフとメンバーの間をうめてほしい（5）
	b．地域活動　1 （直接）	地域での生活援助、障害者個々へのホームヘルパー的な協力、単身者への家庭訪問、病院への送迎、受診介助（5）
	c．地域活動　2 （普及、啓蒙等）	地域で障害者が安心して暮らせるよう地域住民への啓蒙活動 地域での理解者という立場、啓蒙活動、地域内の情報提供（5）
	d．保健所以外の施設団体への援助	作業所設置の推進者 作業所の手伝い 家族会等への援助（3）

〔4〕ボランティア導入にあたってどんな条件が必要でしょうか。

（1）ボランティア個人の資質に関して

複数回答

	① 病院 (%)	② 作業所 家族会 (%)	③ 保健所 (%)	計 (%)
a．人柄	21 (35.6)	4 (44.5)	10 (25.7)	35 (32.7)
b．健康	10 (16.9)	1 (11.1)	9 (23.1)	20 (18.7)
c．精神保健に対する知識と理解	17 (28.8)	3 (33.3)	10 (25.6)	30 (28.0)
d．特技	10 (17.0)	1 (11.1)	8 (20.5)	19 (17.8)
e．その他	1 (1.7)		2 (5.1)	3 (2.8)
計	59 (100.0)	9 (100.0)	39 (100.0)	107 (100.0)

※eの内容　①リーダー性

③時間的にゆとりのある人・他の組織（グループ、団体など）とかかわりのある人

（2）導入に際して懸念されること

複数回答

	① 病院 (%)	② 作業所 家族会 (%)	③ 保健所 (%)	計 (%)
a．補償（保険等）	13 (29.5)	3 (30.0)	10 (34.5)	26 (31.3)
b．経費（実費・交通費等）	15 (34.1)	3 (30.0)	9 (31.0)	27 (32.5)
c．秘密保持	15 (34.1)	3 (30.0)	9 (31.0)	27 (32.5)
d．その他	1 (2.3)	1 (10.0)	1 (3.5)	3 (3.5)
計	44 (100.0)	10 (100.0)	29 (100.0)	83 (100.0)

※dの内容　①職員との関係

②かかわり方の質

学ぶ姿勢とフレンドシップが必要

③未記入

〔5〕精神保健ボランティアに関することであれば、どんなことでも結構です。ご意見、ご希望、気がかりな点などお書き下さい。

複数回答

		内　　容
① 病院 総件数 (16)	a．ご意見	・ボランティア概念の確認が必要、真のボランティア精神か、どの程度のものか ・責任を持ち、知識を持つ人には経費を支給すべきである。 ・急性期の患者さんには不向きであろう（3）
	b．センターへのご要望等	・経験を有する潜在的人材バンクができることを望む ・精神障害者のみではなく身障者の事故実現、ＱＯＬの向上に資するボランティア活動も検討してほしい ・具体的な活動内容について知りたい ・ボランティア活用の手続きを明確にしてほしい（6）
	c．ボランティアに望む事	・人が変わらないで定期的に参加できる人を希望 ・職親、外勤、アパートを貸していただける方もボランティアとして参加してほしい ・本人に関心を持って世話しようとする人であってほしい ・責任と守秘を行なえる人であれば入ってほしい ・精神科にある程度経験のある人がよい（5）
	d．展望について	・一人一人の意識が変わり、草の根運動のように周囲の理解を深め、一人でも多くのボランティア活動が定着するように働いていきたい ・ボランティアの力を借りて、患者さんの生活が変化に富み、生き生きと生活できるよう願う（2）
② 家族会 作業所 総件数 （5）	a．ボランティアに望む事	・精神障害者への対応の仕方など、精神保健の研修が必要 ・メンバーの日常をさりげなく支えてくれる人が精神保健ボランティアだと思う（2）
	b．その他	・今当会に来ていただいている精神保健ボランティアの方に数あるボランティアの中で精神保健をどうして選んだのか尋ねました

		内　　容
		・家族会としてはまだ考えておりません 保健所のデイケアや作業所でよろしくお願いします ・センターの活動に期待します（3）
③ 保健所 総件数 （9）	a．センターへのご要望	・受講生の名簿がほしい ・ボランティア活用の例があれば教えてほしい ・実際導入する際はセンターからの指導を望む、また、その体制づくりが必要 ・地域でボランティア教室の開催計画は？ ・ボランティアの研修に保健所実習を組み入れてほしい（9）

結果及び考察

〔1〕の精神保健ボランティアの必要性は、①病院、②作業所・家族会、③保健所とも必要であるとの回答が多く（60%）、作業所・家族会では回答のあった6ケ所のうち3ケ所で既にボランティア活動が行われていた。病院ではその必要性を認めながらも適当な人材がいないため導入に至っていない所が25ケ所中11ケ所（44%）あった。現在導入している所での活動内容は、病院では生け花、習字等のカルチャー的なものと文化祭等の行事における活動に分けられた。また、作業所・家族会では、作業や調理の手伝い、車の運転、作品の提供など多種にまたがり両者に差異がみられた。なお、必要でないと答えた所は施設そのものが急性短期入院加療が中心で、ＰＳＷの対応で必要な援助が可能である。精神障害者の施設でないとの理山であった。保健所では11ケ所中4ケ所（36%）が検討中との回答で、全体的にみても42ケ所中9ケ所（21%）と今後精神保健ボランティアへの関心がますます高まることが予測される。

〔2〕の精神保健ボランティア以外のボランティアの導入については、導入している所は病院10ケ所（40%）、作業所・家族会2ケ所（33%）、保健所1ケ所（9%）あった。これは精神保健ボランティアの導入7ケ所に比べ13ケ所と6ケ所多くあった。内容は病院では理髪、行事への協力、院内清掃、洗濯物の整理、盆踊り指導、ストレッチ、太極拳、詩吟等幅が広い。作業所・家族会では行事の協力、手芸指導、生け花との回答であり病院と同様な結果であった。

〔3〕のボランティアに望む活動については、病院はヨーガ、書道、陶芸、手工芸、コーラス等ボランティアが持っている特技や趣味の活用を望む内容が31件中11件（35%）。話し相手、相談相手等健康な社会人とのコミュニケーションをボランティアに望んでいるが9件（29%）であった。以下は介助、世話、日常生活の援助の順であった。作業所・家族会では、名簿づくり、機関紙の送付等事務的な援助を望む内容と作業の手伝いに大別された。保健所では、デイケアへの参加と地域活動での援助協力を望んでいることがわかった。

〔4〕のボランティア導入にあたりボランティア個人の資質に関しては、病院は人柄（35.6%）、精神保健の知識（28.8%）、健康（17%）、特技（17%）。作業所・家族会は人柄（44.5%）、精神保健の知識（33.3%）、健康、特技の順で病院と同じ結果であった。保健所では、人柄と精神保健の知識が同数であり、ボランティアの必要条件は「人柄」が一番重要視されている結果がでた。また、導入に際して懸念されることでは、補償、経費、秘密保持ともほぼ同数の結果でいずれも重要なことであると考えられている。

〔5〕の精神保健ボランティアに関する意見、希望、気がかりな点などについては、病院からはボランティア概念の確認、真のボランティア精神がどの程度か、責任と知識を持つ人には経費の支給を、急性期の患者には不向きなどの意見があった。また、センターに対する要望は、ボランティア経験を有する潜在的人材バンクの設立。精神障害者だけでなく障害者全体の自己実現、ＱＯＬの向上に資するボランティア活動の検討。ボランティアの具体的な活動内容、ボランティア活用の手続きを知りたいなどがあった。将来の展望として、住民の理解を深め一人でも多くのボランティア活動が定着できる社会を作りたい。ボランティアの力を借りて、患者の生活が変化に富み、生き生きと生活ができるよう願うなど、ボランティア活動の充実への期待がこめられている。

作業所・家族会は、精神障害者への対応の仕方などの研修が必要。メンバーをさりげなく支えてくれる人が精神保健ボランティアであるとの率直な意見をいただいた。

保健所では、ボランティアの活用例。導入の際のセンターからの指導を願いたい。地域でのボランティア教室の開催。ボランティア教室の実習場所に保健所を組み入れてほしいなど今後地域でのボランティア養成やボランティア導入への動きが感じられた。

当センターの精神保健ボランティア教室は、受講後精神保健ボランティアとして活動意志のある方と受講者自身の心の健康をはかることを目的としている。それ故、受講者の全てがボランティア活動にはつながらないが、はじめにもふれたように受講者は100名になっ

た。しかし、実践活動の場がなくボランティアの皆様には多大なご迷惑をおかけした。今回のアンケート調査は、その点もふまえ、関係機関及び関係団体のご協力を得て実施した。

結果から注目すべき点は、ボランティアは必要だが適当な人がいないとの回答が半数近くあったことである。ボランティア活動の場が多くあることがわかった。受講者には、それぞれが希望する活動の場を。受け入れ側には、その条件に合うボランティアをといったボランティアバンクとしての役割りがセンターに示された課題の一つであろう。今後この結果を基に具体的な方向性をみつけ実践につなげるボランティア教室の開催と継続研修を含めてその課題は重要である。

精神保健ボランティアに関する初めての調査であり、設問自体が不十分であったにもかかわらず、お忙しいなか貴重な時間を削いてご回答をいただいた各所（院）の皆様に厚く御礼申しあげます。

（５）協力組織の育成

ア．関係団体への協力援助

イ．地域家族会リーダー研修会

ウ．ボランテイア教室

ア．関係団体への協力援助

（ア）三重県精神障害者家族連合会（三家連）

三家連が発足して20年余り、会員の高齢化が問題とされながらも、保健、医療関係機関との連携強化や、ボランティアグループ等の歩み寄りにより質実共に、会の成長が図られつつある。

平成３年度は、家族会の育成と共に、こうした関係領域の拡大と、連携の強化を目指し指導援助を行った。

援助回数は、次のとおりで、年々増加してきている。従来、事務局で全て作業されてきたものを、委員会方式に切り換え、事務局、保健所や病院等の関係機関、こころの健康センターの各関係者で構成されたメンバーにより、第20回三家連精神保健大会の開催、三家連誌“あゆみ”の編集等を実施した。

三家連協力援助実施状況

平成元年～３年度

年　　度	回　　数　（回）
平成元年度	8
平成２年度	7
平成３年度	33

（イ）精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は、平成４年３月末現在、病院家族会２か所、保健所単位の地域家族会は、準備を進めてきたふるさと会（伊勢）が平成３年12月結成され、７か所となった。地域家族会への援助は、主に、保健所にて開催される各家族会の定期総会への参加や、会独自で計画された研修への講師依頼等が中心で、共同作業所づくりにむけての具体的な取り組みが進む中、情報提供等を含め、年々協力援助の要請が増加している。

各地域家族会への指導援助は次のとおりである

精神障害者地域家族会への協力援助実施状況

年　度	回　　数　(回)
平成元年度	8
平成２年度	4
平成３年度	15

（ウ）アルコール関連組織（断酒会等）

三重断酒新生会は、昭和47年に結成され、アルコール依存者の自助組織として独自の活動を行っている。県内には、６ブロック13支部で各々例会がもたれ、地域に根ざした活動が行われている。また昨年にひき続き、「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が開催され、センターも世話人の１人として計画立案等に参画した。平成３年度の協力援助実施状況は次のとおりである。

平成３年度アルコール関連組織協力援助実施状況

内　　容	実施回数
ネットワーク会議	5
第７回アルコール問題連続講座	1
三重断酒新生会中勢支部結成14周年記念大会	1
三重断酒体育祭	1
全日本断酒連盟第18回近畿ブロック大会 三重断酒新生会結成20周年記念大会	1

イ．甲州、東海ブロック家族相談員研修会

全家連の主催する精神保健家族相談促進事業である同研修が平成３年度は、当県で開催されることになり、三家連と共催し実施した。なお、例年開催している地域家族会リーダー研修会を今年度は、この研修に充てることとした。

開催の趣旨、プログラム、参加状況は次のとおりである。

精神保健家族相談員　甲州、東海ブロック研修会

開催の趣旨

精神障害者の社会復帰促進には、家族の積極的な取組みが必須条件でありその為には、家族の心理的な安定・治療・リハビリテーションに対する意識変革が必要で有り、家族同志の正しい相互相談活動が有効な手段となります。

さらに、家族会の活性化を図るとともに、作業所の運営等、積極的に推進することが、最も望まれるところであります。

そこで、この研修会を通じて、家族会における相談活動のあり方と、その方法・リハビリテーションに関する基本的知識を、講義と討論等により研修し、家族会の資質の向上を図り、地域における相談支援活動を促進することにより、相談活動を活性化し、精神障害者と家族の、福祉の向上を図りたいと考えます。

甲州、東海ブロック家族相談員研修会プログラム

第1日目　（1月30日　木曜日）

12：30～13：00	受　付	歓迎の辞	三家連会長
13：00～13：30	開会式	来賓祝辞	菰野町長
			四日市保健所長
			三重県保健環境部保健予防課長
			全家連

来賓紹介

時間	講　師	演　題
13：00		県連活動報告（各県5分） 全家連活動報告（10分）
（休憩　5～10分）		
14：30	三重県こころの健康センター 所長　原田　雅典氏	患者さんとうまくつきあう ～こころの病を持つ人と共に～
17：30 20：00	夕　食	自由交流会
宿　泊		

第２日目（１月31日　金曜日）

時間	講　　師	演　　題
9：00 15：00	日本女子大学教授 増野　　肇氏	グループワーク（Ｉ） 体験学習
15：15 17：10	共同作業所全国連絡会副運営委員長 坂田　三雄氏（舞鶴共同作業所）	「精神障害者の共同作業所の役割」
17：30 20：00	ふれあい交流会　　懇親会	

第３日目（２月１日　土曜日）

時間	講　　師	演　　題
	第一分科会	
9：00 10：00	日永病院ＰＳＷ 市川　正之氏	精神障害者が使える福祉制度 （年金・税金）
10：15 11：30	日本福祉大学教授 稲子　宣子氏	相続をめぐる諸問題
	第二分科会	
9：00 11：30	作業所部会 所長　指導員研修 「共同作業所の現状と課題」 司会　岐阜市南保健所　天野　薫氏 実践報告者 藤枝心愛作業所　藤枝市　村田　みつ氏 むつみ作業所　豊川市　河村　敏夫氏 とべ工房　名古屋市　鈴木まり子氏 わかば共同作業所　四日市市　伊藤　博子氏 助言者　坂田　三雄氏	
12：30	閉会式　　・閉会の辞	
12：40	解　　散	

甲州、東海ブロック家族相談員研修会参加状況

	県別		男	女	計	30日	31日	1日
家族	山梨		12	2	14	14	14	14
	静岡		5	3	8	6	6	6
101	愛知		9	7	16	5	11	15
	岐阜		7	3	10	7	7	8
	三重		20	33	53	34	33	24
37	三重	行政	5	15	20	27	24	19
		医療	6	7	13	7	6	8
		ボランティア	1	3	4	2	0	3
10	講師 座長 来賓		10					第1 60 第2 29
総計				148名		102	101	97

ウ．精神保健ボランティア教室

地域で生活する精神障害者への理解を深めそれを支援する人的資源の育成を目的に平成元年度よりボランティア教室を開催して3年目を迎えた。

元年度・2年度の修了者は各々ＯＢ会を結成しボランティア活動を開始している。

平成3年度も、さらに、活動の充実を図るため、教室を開催した。

対象も従来通り、一般住民を対象として近辺の市町村広報にて公募し、応募が30名に達した時点で締め切り開始した。27名の方が修了されたが、修了時より、ＯＢ会の方々と共にボランティア活動を開始していただいている。

教室の実施状況、受講者の状況、教室終了時アンケート及び元年、2年の修了者の活動状況は次のとおりである。

精神保健ボランティア教室実施要領

1．目　的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来の入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え、押しすすめていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を開催するものとする。

2．主　催

三重県こころの健康センター

3．日　時

平成3年9月3日～平成3年12月16日まで。

毎月第1、第3火曜日（一部曜日変更）午後1時30分から午後3時30分

4．会　場

三重県こころの健康センター

5．対　象

精神保健及びボランティア活動に関心があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方及び受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

定員　30名

6．内　容

別紙1のとおり。

7．費　用

受講料は無料とする。

8．募集方法

別紙1の募集文を利用して公募する。

9．申し込み方法及び期日

別紙1の募集文に添付されている申し込み用紙により申し込む。

締め切り8月9日（金）。ただし定員に達し次第締め切る。

別紙1

『精神保健ボランティア教室』のご案内

三重県こころの健康センター

今日、物質的に恵まれ、生活そのものは豊かになったとはいえ、ますます複雑化する社会や人間関係の中で、学校や社会に適応出来ない人、心の悩みを持った人が増加しています。この様な背景の中で地域で生活している心の悩みを持った人々や回復途上の精神障害者を正しく理解して協力していただける方が求められています。

精神保健及びボランティア活動に関心があり、社会の一員として自分の持っている時間、技能、労力を人のために使ってみたいと感じている方。また、ご自身の“心の健康づくり”に役立たせたいと思われる方のために教室を下記のように開催します。どうか奮ってご参加ください。

記

1．日　　時　　平成3年9月3日～平成3年12月16日

毎月第1、第3火曜日（一部曜日変更）午後1時30分～午後3時30分

2．場　　所　　三重県こころの健康センター

3．教室内容　　右ページの日程表をご覧ください

4．対象人員　　精神保健及びボランティア活動に関心のある方　３０名

5．申込〆切　　申込書に必要事項を記入のうえ申込先まで送ってください。

〆切りは　8月9日（金）

6．申込先及び問い合わせは

久居市明神町２５０１－１　三重県久居庁舎1階

三重県こころの健康センター　℡0592-55-2151

平成３年度　精神保健ボランティア教室プログラム

	内　　容
９月３日（火）	（13：30～14：30）　（14：30～15：30） 開講式、オリエンテーション　講義「ライフサイクルと心の健康」 ①　小児期 こころの健康センター主査・臨床心理士　久保早百合
９月17日（火）	（13：30～15：30） 講義「ライフサイクルと心の健康」　②　中高年期 こころの健康センター所長・精神科医　原田　雅典
10月１日（火）	（13：30～15：30） 講義「ライフサイクルと心の健康」　③　思春期 小児心療センターあすなろ学園医長・児童精神科医　西田　寿美
10月15日（火）	（13：30～15：00）　（15：00～15：30） 講義「地域における精神保健活動について」　フェスティバルについて説明 こころの健康センター主幹・保健婦　青島　昭子
11月10日（日）	（10：00～15：30） こころの健康づくりフェスティバル （於　津市、ＮＴＴ三重体育館）
11月19日（火）	（13：00～16：00） 施設見学
12月３日（火）	（13：30～15：00）　（15：00～16：00） 講義「精神保健ボランティアの経験から」　反省会、終了式 長野県精神保健ボランティアグループ桐の会会長　今井　利江
12月16日（月）	（10：00～15：30） 合同懇親会

受講者の状況

表1　年代別ボランティア経験の有無及び職業の有無

区分 / 年代	人数(%)	ボランティア経験			有職者							専業主婦
		有	無	不明	公務員	保母	会社員	パート	講師	農業	臨時職員	
20	1	1									1	
30	2	2			1		1					
40	10	5	5			1		3				6
50	12	4	7	1			1		1	1		9
60	3		3									3
計	28	12	15	1	1	1	2	3	1	1	1	18
%	100.0	42.9	53.6	0.1								

受講者の年令層は、20才代から60才代と幅広いが、40才代、50才あわせると全体の約8割を占めている。

表2　受講者の趣味、特技など（複数回答）

種別	人数	種別	人数	種別	人数
読書	8	3分間スピーチ	1	史跡めぐり	1
茶道、華道	3	音楽鑑賞	1	ドライブ	1
琴	2	リズム体操	1	ネコと遊ぶ	1
園芸	2	カラオケ	1		
登山	2	短歌	1		
畑つくり	2	陶芸鑑賞	1		
手話	2	水墨画	1		
和洋裁	1	三味線	1		
ワープロ	1	ししゅう	1		

表3　受講者地域別（保健所管内別）

地　　域	四日市	鈴鹿	津	久居	伊勢	上野	計
参加者数	4	2	8	6	2	6	28
%	14.3	7.1	28.7	21.4	7.1	21.4	100.0

教室終了後、アンケートを実施した。その結果は表4～表7のとおりである。

アンケート回収数　25

表4　ボランティア教室をどこで知りましたか。

項　　目	数
市町村広報	19
県政だより	1
町村役場	1
保健所	1
福祉事務所	1
社会福祉協議会	1
病院	1

表5　受講の動機は？（複数回答）

動　　機	数
ボランティア活動を行いたい	13
精神保健知識の習得	17
精神障害者への関心	10
その他	1

表6　今後の研修やグループ活動への参加についてはいかがですか。

項　　目	数
参加したい	20
参加したいが都合が悪い	4
参加は考えていない	1
その他	

表7　どういうボランティア活動を望んでいらっしゃいますか。（複数回答）

項　　目	数
デイケアなど直接障害者の方と交流できる場で活動したい	14
フェスティバルなど行事に参加したい	10
バザー作品作りなど、間接的な援助がしたい	4
そ　の　他	1

他にも、教室に参加しての感想や、意見をお聞きしたが、受講により自身の心の健康に役立った、あるいは、他の受講生に刺激をうけたと記載する方が多かった。また、今後のボランティア活動にむけて、更に研修や自己啓発をしていきたいという意欲的な意見が目立った。

精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

精神保健ボランティア教室修了者うち各々、1期生（元年度修了者）17名、2期生（2年度修了者）18名でＯＢ会が結成された。クラス名も1期生「至心会」、2期生「こころの会」と名づけられ、クラス別のグループ活動を大切にしながら、センター行事や研修等では連携し、協力して活動していただいた。

平成3年度の主な活動は次のとおりである。

活動内容（参加実人員）

○三家連事務局への協力（2）

○こころの健康づくりフェスティバルにおける、事前準備、当日の協力、バザーの実施（30）

○甲州、東海ブロック家族相談員研修会の際の他県よりの参加者のためのおみやげづくり（手作り作品101点作成）当日の協力（13）

○ひろば（津保健所ボランティア）への協力（1）

○ひまわり会（上野地域家族会）への協力（1）

○センターデイケアへの協力（4）

○センター合同クリスマス会への協力（32）

これらの活動の他、センター内外で開催される研修会等について、機会あるごとに案内したが、毎回多数の参加者があり、意欲的であった。

また、修了者が比較的多い、センター周辺の中勢地区には、ボランティア活動の拠点ともいうべき、共同作業所がなく、単に人的資源の育成だけでは、活動を根づかせていくのは困難であるという事が、再三　定例会で話し合われた。その結果、次年度にむけて、ボランティアが中心となり、精神障害者のための“うけ皿づくり”をしていこうという方向が定まった。そのための情報収集や、作業内容の検討、試作品作り等、ボランティア各々が準備を始めている。さらに、定例会への出席できない他の会員のためにも、機関紙を作り、情報が行きわたるようにしてはどうかとセンターより提案したところ、6名の方が、広報係を引き受けて下さり、編集会議の後、第1号が平成4年4月1日付で発行された。

（6）心の健康づくり推進

ア．こころの健康づくり教室

イ．こころの健康づくり推進連絡会議

ウ．家族教室

ア．こころの健康づくり教室

今年度のこころの健康づくり教室は、精神障害者の社会参加に向けての交流の場として「こころの健康づくりフェスティバル」を開催した。

「こころの健康づくりフェスティバル」実施要領

1．目　的

県下の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所・こころの健康センターのデイケアメンバー等地域社会の中で生活し社会復帰をめざす人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関職員の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰への促進を図る。

2．開催日時

平成３年11月10日（日）午前10時30分～午後３時

3．場　所

津市大字藤方602-1　ＮＴＴ三重体育館

4．主　催

こころの健康づくりフェスティバル実行委員会

こころの健康センター、デイケア実施保健所（四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、上野）、わかば共同作業所、すずわの家共同作業所、社会復帰施設「四季の里」、三重県精神障害者家族連合会、地域家族会「ときの会」、精神保健ボランティアグループ

5．プログラム

① 別紙

② 各施設、デイケアの作品展示を行う

社会参加に向けての交流の場

こころの健康づくりフェスティバルプログラム

と　き・平成３年11月10日（日）
ＡＭ10：30～ＰＭ３：00
ところ・ＮＴＴ三重体育館
津市大字藤方☎0592-26-7367

	種　目	団個	1組人数	組数	総数	赤色	白組	予定時間
	開　会　式				全員			10：30～10：45
1	風船ゲーム	団		2	全員			10：45～11：05
	（休　憩）							11：05～11：20
2	借り物競争	個	6	10	60	30	30	11：20～11：40
3	網引き	団	30	4	120	60	60	11：40～12：00
	（昼食・休憩）							12：00～1：00
4	ウルトラクイズ	団			全員			1：00～1：20
5	スプーンリレー	団	15	4	60	30	30	1：20～1：40
	（休　憩）							1：40～2：10
6	パン食い競争	個	6	15	90	45	45	2：10～2：30
7	追っかけ玉入れ	団	40	2	80	40	40	2：30～2：45
	閉　会　式				全員			2：45～3：00

こころの健康づくりフェステバル　ポスター

こころの健康づくりフェスティバルを開催して（センターだよりNo.16掲載）

こころの健康づくり推進事業の一環として「こころの健康づくりフェスティバル」を平成３年11月10日（日）津市藤方ＮＴＴ三重体育館において開催しました。

このフェスティバルは「県内の社会復帰施設・共同作業所のメンバー、保健所・こころの健康センターのデイケアメンバー等地域社会の中で生活し社会復帰をめざす人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関職員の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰への促進を図る」ことを目的としたものです。

県内の社会復帰施設やデイケアのメンバーが一堂に会しての催しは初めてであり、企画するにあたり、当然の事ですが、フェスティバルに一人でも多くの人が参加し、満足して帰る。そして、その事が今の生活に潤いと活力を与え、今後の生活に少しでも役立てていただければとの思いがありました。

フェスティバルを成功させるには、センターだけではなく、施設、保健所等関係者に協力していただくことが必要で、参加者全員のフェスティバルとして盛りあげるため、実行委員会形式で運営しました。実行委員のメンバーは、社会復帰施設（援護寮、通所授産施設）１ケ所、共同作業所２ケ所、デイケア実施保健所６ケ所のほか、三家連（三重県精神障害者家族連合会）、ときの会（津家族会）、精神保健ボランティア（こころの健康センターボランティア教室受講者）の代表の方にお願いしました。

実行委員会は、第１回を５月に持ち、以後７月、８月と都合３回開催し、日時、会場、プログラム、役割分担、準備等について協議しました。プログラムは、室内レクリエーション、運動会競技で誰もが参加できる種目にし、施設、作業所、デイケアの作品も展示することになりました。また①一人でも多くの参加を求める②地域社会で生活している精神障害者を理解していただく。そのため、ポスターを作成、保健所、病院、福祉事務所、市町村等関係機関等に配付し、掲示を依頼しました。

フェスティバルの当日、実行委員、保健所、施設職員、ボランティア、家族会など会場作りをお願いした人は、８時半に体育館に集合、各々が役割分担のスケジュール表に基づき、会場作りに取りかかりました。会場の都合で前日には準備ができず、朝からの準備で10時半の開会式に間に合うか一抹の不安がありましたが、その懸念もしばらくして解消さ

れました。早く着いたメンバーも会場作りに参加、全員が力を合わせた結果、10時にはほとんどの準備ができ開会式を待つだけになりました。

開会式は、各々のグループが創意工夫して作りあげたプラカードを掲げ、堂々の入場行進により始まり、実行委員長であるセンター所長及び来賓の方々の挨拶のあと、津保健所デイケアメンバーの代表が選手宣誓を行い、力強いことばが館内に響きわたりました。

競技は、参加者全員が紅白に分かれ得点を争い、また、全種目が勝敗に関係するとあって、自チーム勝利のため、選手、応援する人が一体となり各種目熱戦が展開されました。昼休みは、一緒に競技に参加したという親近感からか他のグループやボランティアの方々と楽しそうに交流をしている人の姿が随所でみられ、また、作品展示コーナーには、社会復帰施設、共同作業所、デイケアでの手芸、陶芸など沢山の作品が展示され、家族会、ボランティアの即売コーナーも人気があり、いづれも人垣ができるほどのにぎわいをみせていました。

午後からの種目も熱戦のうちに終了、閉会式の後、全員で後片付を行う中でメンバーからは、楽しかった。良かった。来年も参加したい。などの声がきかれました。

社会復帰をめざし地域で生活している障害者の交流の場として、フェスティバルを企画し、メンバー、関係職員、家族会、ボランティア等200名近くの参加をいただき無事終ることができました。内容、進行、その他まだまだ不十分な点があったとは思いますが、メンバーの方が喜んで帰られる姿を見て、明日からの生活に少しは役立てていただけるのではとの思いがしました。

イ．こころの健康づくり推進連絡会議

現代社会は、社会生活環境の複雑化に伴いこれらに適応するためのストレスが増大し、ノイローゼ・うつ病等精神疾患が増加している。しかしながらストレスを緩和するために重要な役割を果す場、人が希薄化してきている。このため広く精神保健に関る知識の普及等を行うことにより精神保健の保持を図ることが必要である。

平成３年度は上記の目的のために、電話相談会を設置し、電話相談を実施している機関及び電話相談を実施予定している機関、７機関を対象にした「こころの健康づくり推進連絡会議」を行った。

年３回実施し、各関係機関における電話相談の現状報告、「電話相談」についての研修会、電話相談事例検討会を行うとともに、関係機関の連携を密にするために連絡会議をもった。

こころの健康づくり推進連絡会議実施要領

１．日　　的

近年の社会生活環境の複雑化に伴いストレスが増大し、ノイローゼ・うつ病等精神疾患が増加していることにかんがみ、これら精神疾患に関する現在の問題を明確にし今後の展望を考慮するとともに、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、精神的健康の保持増進を図る。

２．実施主体　三重県こころの健康センター

３．電話相談部会の設置

上記の目的のために連絡会議に電話相談部会を設置し、電話相談事業の現状及び課題について検討すると共に、各関係機関相互の理解を深めその役割を明確にし、さらに連携を密にすることにより精神保健活動の中における電話相談の充実を図る。

４．協議事項

ア．関係機関の情報交換（第一回）

イ．「電話相談」についての研修会（第二回）

ウ．ア．イを実施する中で問題提起があった場合その協議（第三回）

５．構成メンバー

ア．三重県教育委員会、生活学習課

イ．三重県警察本部

ウ．財団法人三重県長寿社会促進センター

　　高齢者総合相談センター

エ．財団法人三重県母子寡婦福祉連合会

オ．三重県中央児童相談所

カ．三重県婦人相談所

キ．三重県こころの健康センター

以上、7か所の行政担当者、及び、直接の相談担当者

6．実施期日

第一回　平成3年7月11日（水）

　　午後12時30分～3時30分

第二回　平成3年11月28日（木）

第三回　平成4年3月17日（火）

いずれも午後1時30分～3時30分

7．場　　所

三重県こころの健康センター　第1デイルーム

　　久居市明神町２５０１－１

　　電話　０５９２－５５－２１５１

◎　第1回

日　時　平成3年7月11日（木）

議　題　①会議（電話相談部会）の主旨説明

　　②各実施機関における開設状況及び相談状況について

出席者　10名

内　容

電話相談窓口を開設している機関（県レベル）7か所と平成5年度に開設予定の県婦人総合施設内での電話相談事業開設に向けて準備中の福祉担当課の計8か所よりそれぞれの現状報告をいただき意見交換を実施した。

意見交換の内容は

・相談時間の問題

　例　夜間も必要なのではないか。

24時間大成の場合の労働条件との関連。

夜間電話はいたずら電話が多いが見分けがつきにくい。

移送電話システムもある。

・相談内容

ごくささいな相談から、緊急対応の必要な相談もある。

精神障害の疑いのある相談もあるが受診のすすめがむずかしい。

長時間同じような事をくり返しの相談で相談を終結させる機会をうまくつかめず苦労する。

などの問題が出された。これらの問題について各機関での相談事例を検討する機会を持ち、それらへの対応について学ぶ事とした。

◎ 第2回

日　時　平成3年11月28日（木）

議　題　講演会

「電話相談」のすすめ方　　－モシモシのむこうには－

講師　青山学院大学講師（横浜いのちの電話理事）　　有田モト子先生

出席者

機関名		一般行政事務職	相談員	医師	保健婦	看護婦	ケースワーカー	心理士	計
県関係機関	青少年婦人課	3							3
	生涯学習課	1	1						2
	伊賀福祉事務所						1		1
	紀北福祉事務所		1						1
	中央児童相談所		1					1	2
	婦人相談所	1	2						3
	あすなろ学園						1		1
	保健所			1	8				9
	こころの健康センター		2	1	2		1	1	7
	総合教育センター	2							2
	県警防犯課		1						1

市町村関係機関	4	8		8	2	3		25
医療機関	2		1		3	3		9
高齢者総合相談センター		2						2
わかば共同作業所						1		1
	13	18	3	18	5	10	2	69

計69名

内　容

電話相談の基本的な部分について細かくお話をしていただき、また相談員の心構えについても分かりやすく説明された。（報告書参照）

◎　第3回

日　時　平成4年3月17日（火）

議　題　事例検討会（電話相談事例）

出席者　11名

内　容

各電話相談開設機関にかかってくる相談内容を紹介しあい、各機関の特徴を理解した。

まとめ

電話相談のため、匿名性、一回性の問題もあるが名乗った相談者には何らかの形で後日支援を実施し、相談者との信頼関係に大きく役立っている報告もなされた。相談をかけてくるかけ手は日常生活を不安の中で暮らし、電話相談をする事により地域での生活を保っている。複雑化する社会の中で人間関係は益々希薄となり地域でのつながりも疎遠となりつつある。また自分の価値観も揺れ動き、外からの刺激にもふりまわされるケースが多いと思われる。今回は各相談窓口でのメンタルヘルスに関する特異な事例を検討し、その窓口のもつ特徴をより理解していただく事を目的とした。

電話相談ショッピングをする人も多分にいると思われるが各々の機関の持つ特異性を理解し、よりよい支援が出来る事を願うものである。

なお、この会議の詳細については、平成3年度版　こころの健康づくり連絡会議報告書として作成し、各関係機関に配布してある。

ウ．家族教室

思春期はこどもから大人への過渡期であるといわれ、その過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生じ、さまざまな思春期特有の心の問題を引き起こす。

登校拒否、家庭内暴力、非行など思春期の心の問題が行動上の問題となって表れている。このような状況は現代社会における社会的、文化的そして経済的な急激な変化とは無縁ではない。このような変化は既成の価値観と伝統的な文化遺産を不安定なものにする。家族の役割も、このような時代的な流れの中で、不安定なものとなっている。

今回、この教室は思春期における心の問題を、家族の役割、殊に親の役割を考えることで思春期の心の問題を持つ子ども達に援助を試みようとすることを目的としている。その中で家族、多くは親に対して思春期の子ども達がもつ悩みや疑問を具体的に理解するようにし、これらの青少年に対するよき理解者としての家族を演ずることができるようになること目指した。

（ア）家族教室の概要

a．目的

思春期の心の問題をもつ家族に対して、指導、教育、及び家族同志の交流を図り、本人を支えるための知識、理解を深める。

b．対象者

思春期の心の問題をもつ家族で連絡して講座に参加できる方

c．募集人員　10名

d．期日

平成３年７月～平成３年10月

毎月第２、４火曜日　７回

午後１時30分～午後３時30分

e．内容

講義・講師との話し合い。グループカウンセリング

プログラム（表１）に示す。

表1．平成3年度家族教室プログラム

	内　　容		
	午後1時30分	午後3時	午後3時30分
7月9日（火）	オリエンテーション　自己紹介 所長挨拶		
7月23日（火）	講義「思春期の心の病」 小児心療センターあすなろ学園　医長　（児童精神科医）西田寿美	ミーティング	
8月27日（火）	講義「教育からみた思春期問題」 松阪市立殿町中学校　養護教諭　伊藤弘子 〃　東部中学校　養護教諭　鈴木宣子	ミーティング	
9月10日（火）	講義「児童相談所からみた思春期問題」 中央児童相談所　主幹兼判定課長（心理判定員）藤牧隆子	ミーティング	
9月24日（火）	講義「父親カウンセリングからみた思春期問題」 小児心療センターあすなろ学園　主査（ケースワーカー）小石川直樹	ミーティング	
10月8日（火）	グループカウンセリングⅠ こころの健康センター　主査（臨床心理士）久保早百合		
10月22日（火）	グループカウンセリングⅡ こころの健康センター　所長（精神科医）　原田雅典 主査（臨床心理士）久保早百合		

※　講師の都合によりプログラムの変更をする場合もあります

（イ）家族教室の経過

初回、プログラムに従って参加家族相互間の紹介から入り、それぞれの家族がもつ悩みを話し合った。その内容を分析してみると、問題行動として顕在化しているのは不登校で共通していたが、内容的には単なる適応障害から精神病圏を疑わせるものまで巾広いものであった。

従って第2回目のあすなろ学園医長・西田寿美先生の「思春期の心の病」についての講義は、親たちの思春期の心の問題を考えていくうえで大きな理解を生み出した。思春期の心の問題を自分の子どもを通して狭い範囲でしか考えることができなかった

親達に対して、思春期の子どもの心が、いかに繊細なものであり、もろいものであることが理解されたようであった。また、それと同時に思春期のこのような心の特徴は、大人になる発達課題であることも理解されたようであった。

講義の後の話し合いは、このような親達の考え方の変化が西田医長の適切な助言で具体的な考えとして実行されるような雰囲気を生み出した。たとえば、ある親が今まで自分の子どもが「要求水準が高く何ごとも途中でやめてしまう」という発言をした。それに対して西田医長が「不安に対する理解と、やりとげたという体験をさせること」という内容的には相反する助言をしたが、それをその親が受け入れ実行する考えを話したことにも、親の理解が深まったことがうかがえる。

第3回から5回目までは、具体的な現場をよく知っている学校の養護教諭、児童相談所の藤牧判定課長、そしてあすなろ学園の小石川主査による思春期問題の具体的な講義と話し合いであった。その一連の講義と話し合いを通して西田医長の話の内容が深められ、家族が学校や家庭で何を行ったらよいのか、そして日頃子どもとは疎遠になりがちな父親の役割の重要性を再確認の雰囲気を生み出した。

ある親は、養護教諭の話を『一年前の子どもの姿と話しがダブル』という表現で言い表わし、「月曜日は今でも休むことがあるがそれでよいと思っている」とまで述べた。

第6回、話しを聞いて理解したことを互いに話し合いことにした。これには当センターの臨床心理士が参加した。この中で話題になったことを少し紹介すると、子どもを積極的なかたちで評価しようとする姿勢とともに、『気持ちの整理のつかなさ』も言われた。

第7回は、当センターの原田所長と臨床心理士が参加し前回に引き続き話し合いを行った。ここでは最終回ということもあり、今まで言われなかった親としての悩みが多く発言された。ただそのような雰囲気の中で親が互いにそれぞれの発言を補い合うところがみられ、今後の進展が期待された。

エ）まとめ

7回のセッションを通して親の子どもへの理解と援助を試みた家族教室であったが、講師の先生方のお話や助言、そして原田所長の助言を通して、親たちがもつ悩みや不安に対して、一定の援助を与えることができたように思う。殊に自分の子どもを通し

てしか思春期の問題をみられなかった親たちが、広い視野を学んだことは、思春期の心の問題をもつ子ども達に対する援助の役割を果すといった目的の一部をも達成したように思われる。

もちろんこれだけの回数ですべてを解決したとは言えないが、最後の回でみせた親たちの連帯への意識の芽生え、孤立しがちなこのような家族に対する援助のきっかけになると言えよう。

（７）精神保健相談

精神保健相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

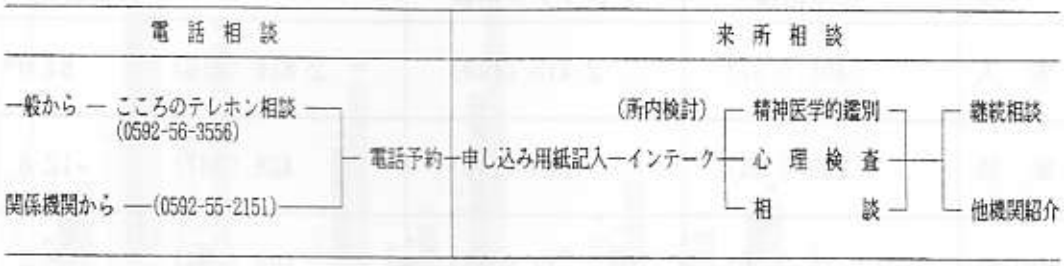
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害のような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし、相談者数の急増にともない他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。相談員は、平成３年度は、医師２名（所長、非常勤医師１名），精神科ソーシャルワーカー１名、保健婦（精神保健相談員）２名、心理技術者１名の計６名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後４時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）２名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には翌日センターから連絡をとる体制にしてある。

相談の流れは、図１に示してあるが、この基本的な考え方は、所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図１．相談の流れ



平成３年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数（表１・表２）をみると、来所相談が前年度比128%、電話相談が103%であり、相談全体は107%とやや増加している。しかし、内容をみると、こころの健康相談が増加しており、継続相談の件数が増えたことが今年度の特徴である。

相談者別件数（表３）については、やや本人からの相談が減り、家族からの相談が増加する傾向がみられた。しかし、件数からみると家族からの相談は前年度のほぼ136%になっており件数からみると、かなりの増加と言える。

ところで、すでに説明したように継続相談の増加は来所相談の多さとなってあらわれており、家族からの相談が前年度比149%（155件）になっているところが注目される。

表1．平成3年度相談件数

（　）内の新規件数

		件　数	構成比　%
こころの健康相談		581(77)	17.3
こころのテレフォン相談		2.772(320)	82.7
再掲	思春期	421(119)	12.6
	老年期	31(25)	0.9
	酒　害	13(12)	0.4
計		3.353(397)	100.0

表2．平成2年度相談件数

		件　数	構成比　%
こころの健康相談		454(86)	14.4
こころのテレフォン相談		2.694(291)	85.6
再掲	思春期	523(116)	16.6
	老年期	33(22)	1.0
	酒　害	6(6)	0.2
計		3.148(377)	100.0

表3．相談者別件数

（　）内は新規件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	% 構成比
本　人	401（ 37）	2.415（179）	2.816（216）	84.0
家　族	155（ 34）	273（113）	428（147）	12.8
その他	25（ 6）	84（ 28）	109（ 34）	3.2
計	581（ 77）	2.772（320）	3.353（397）	100.0

相談内容別は、図2に示してある。全体を大きく分けると精神障害に関係したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害に分けることができる。精神障害に関係したものは、全体の75.9%となっており、ほぼ、昨年度と変わってはいない。昨年にひき続き本人からの相談数が増加していることを考え合わせると精神科治療だけでなく、精神障害に対する不安は減っているとは言いがたい。

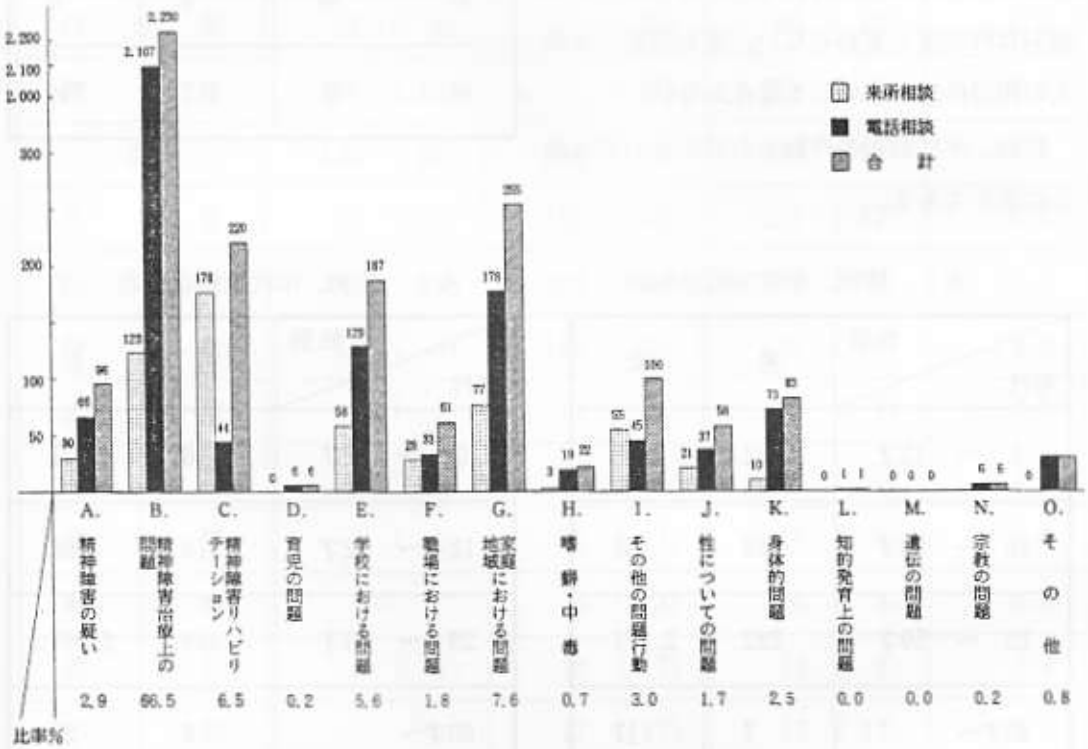
適応障害の中では、地域・家庭における問題、そして学校における問題が、それぞれ、

7.6%、5.6%と他の適応障害の中では群をぬいている。このような傾向が昨年度よりひき続いてみられることは、現代社会における地域及び家庭、そして学校といった場での機能が低下していることをうかがわせ興味深い。

今年度、その他の適応障害で興味が深いところは性についての問題で、昨年度1例も無かった来所相談が21件もみられたことである。性についての相談そのものがむしろ減っていることを考えると、興味深い現象であると言える。

昨年、1／3以下に減った身体的問題は今年度は増加傾向にあるが、以前の相談件数にまでは増加してはいない。

図2．相談内容別件数



次に、表4に示されている性別、年代別についてみてみると、来所相談では男性が女性よりも多い傾向が今年度も変わらないが、その差は縮まっている。

年代では今年度は圧倒的に成人が多くなっている。老人については昨年度とほとんど変わらないが、今年度は昨年度来所相談がなかった男性が2名相談に訪れたことが注目される。

次に、表5に示すように電話相談について同じく性別、年代別にみてみると、女性が男性の6倍近くの相談件数を示しており、この傾向は昨年度と変わらない。また男女とも成人の相談件数が多いのも変化がない。

性別、年代別相談件数の合計については表6に示してある。

表4．性別、年代別来所相談

年代＼性別	男	女
0 ～ 12才	4	13
13 ～ 22才	110	49
23 ～ 59才	201	196
60才～	2	6
不　明	0	0
合　計	317	264

表5．性別、年代別電話相談

年代＼性別	男	女
0 ～ 12才	12	8
13 ～ 22才	103	159
23 ～ 59才	282	2,171
60才～	7	17
不　明	8	5
合　計	412	2,360

表6．性別、年代別相談件数

年代＼性別	男	女
0 ～ 12才	16	21
13 ～ 22才	213	208
23 ～ 59才	483	2,367
60才～	9	23
不　明	8	5
合　計	729	2,624

次に保健所管内別相談件数をみてみると、来所相談では津管内と松阪管内がほぼ同じ件数で多い。だが、電話相談では鈴鹿管内が一番多く次に松阪、津という順序になっている。この3保健所管内でほぼ全体の8割以上をしめているのは、昨年度の傾向とかわらない。

なお、新規件数に目をむけると、来所相談及び電話相談で津管内で多く、次に久居管内、松阪管内が続く。この傾向は昨年度と変わってはいない。

表7．保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比 %
桑名	2	26 (16)	28 (16)	0.8
四日市	39 (9)	51 (32)	90 (42)	2.6
鈴鹿	106 (10)	1,170 (37)	1,276 (47)	38.0
津	140 (21)	343 (84)	483 (106)	14.4
久居	93 (21)	124 (48)	217 (67)	6.5
松阪	141 (8)	829 (32)	970 (37)	28.9
伊勢	17 (3)	116 (20)	133 (23)	4.0
志摩	1 (1)	14 (6)	15 (7)	0.5
上野	38 (2)	51 (7)	89 (15)	2.7
尾鷲	1 (1)	15 (7)	16 (8)	0.5
熊野	−	6 (3)	6 (3)	0.2
県外	3 (1)	10 (7)	13 (8)	0.4
不明		17 (17)	17 (17)	0.5
計	581 (77)	2,772 (320)	3,353 (397)	100.0

※（　）内は新規件数内数

特定専門相談

（ア）思春期相談

表８に内容別相談件数が示されているが、この表では中学生から大学卒業までの年齢を考えている。来所相談は159件あり、全体の27.4%を示している。全体の相談件数の17.3%と比べると高く、思春期では来所相談が重要な位置を占めていることには変わりがない。内容的には来所相談においては昨年度に比べて、学校における問題と家庭における問題が増加しているが、これは思春期の家族教室の開催による啓蒙活動が、影響を与えたものと考えられる。つまり、電話相談での件数が減っていることを考えると家族教室の開催が、直接家庭や本人を当センターに来所させるきっかけになるとともに教師に当センターにおける役割の１つの来所相談を知らせたところがあるように思われる。

（イ）老年期相談

60才以上のいわゆる老年期の相談は31件と少なく、全体では0.9%の比率である。内容的には、精神障害の治療上の問題か、来所相談では多く、家庭、地域における問題が電話相談では多い。ただここで注目すべきは、昨年度１件もなかった家庭、地域における問題の来所相談が、今年度１件みられたところがある。

（ウ）酒害相談

酒害相談は表10に示すように13件と少ないが、昨年度の６件と比べると相談件数は２倍になっている。これは平成元年度から行なわれている酒害相談の啓蒙活動がある一定の成果をおさめているのかも知れない。

表8．思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフオン相談 (%)	計 (%)
総件数	159 (100.0)	262 (100.0)	421 (100.0)
A 精神障害の疑い		10 (3.8)	10 (2.4)
B 精神障害治療上の問題	7 (4.4)	26 (9.8)	33 (7.8)
C 精神障害リハビリテーション	56 (35.2)	6 (2.3)	62 (14.8)
D 育児の問題		1 (0.4)	1 (0.2)
E 学校における問題	44 (27.7)	129 (49.1)	173 (41.1)
F 職場における問題	10 (6.3)	10 (3.8)	20 (4.8)
G 家庭における問題	36 (22.6)	24 (9.2)	60 (14.3)
H 嗜癖・中毒		3 (1.1)	3 (0.7)
I その他の問題行動	3 (1.9)	8 (3.2)	11 (2.6)
J 性についての問題	3 (1.9)	16 (6.0)	19 (4.5)
K 身体的問題		19 (7.5)	19 (4.5)
L 知的発育上の問題			
M 遺伝の問題			
N 宗教の問題		1 (0.4)	1 (0.2)
O その他		9 (3.4)	9 (2.1)

表9．老年期相談内容別件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総数	8 (100.0)	23 (100.0)	31 (100.0)
A 精神障害の疑い	2 (25.0)	3 (13.1)	5 (16.1)
B 精神障害治療上の問題	5 (62.5)	5 (21.7)	10 (32.3)
G 家庭（地域）における問題	1 (12.5)	10 (43.5)	11 (35.5)
I その他の問題行動		1 (4.3)	1 (3.2)
K 身体的問題		4 (12.4)	4 (12.9)

表10．酒害相談者別件数

相談者	件数
本人	2
家族	7
その他	4
計	13

Ⅲ．こころの健康センター図書目録

三重県こころの健康センター図書目録

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤　学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋　薫 編	星和書店
4	アルコール症（J. フォート著）	大森正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾　実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子（J. A. Lジング著）	中野善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下　格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉（厚生行政百問百答）	厚生省監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析　1	小比木啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析　2	小比木啓吾 著	誠信書房
17	講座　家族精神医学　1	加藤正明 共編	弘文堂
18	講座　家族精神医学　2	加藤正明 共編	弘文堂
19	講座　家族精神医学　3	加藤正明 共編	弘文堂
20	講座　家族精神医学　4	加藤正明 共編	弘文堂
21	講座　日本の老人　1　老人の精神医学と心理学	金子仁郎 共編	垣内出版
22	講座　日本の老人　2　老人の福祉と社会保障	岡村重雄 共編	垣内出版
23	講座　日本の老人　3　老人と家族の社会学	那須宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者（R. D レイン著）	志貴春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本和雄 共著	日本文化科学社

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
29	児童の発達と行動	加藤正明 共訳	医学書院
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫 著	医学書院
31	社会精神医学の実際　1	加藤伸勝 編	医学書院
32	社会精神医学の実際　2	佐藤亮三 編	医学書院
33	社会精神医学の実際　3	逸見武光 編	医学書院
34	社会精神医学の実際　4	加藤伸勝 編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義 編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ　6　小児のMBD	上村菊朗 共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ　7　登校拒否症	若林真一郎 著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ　8　小児のてんかん	福山幸夫 著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ　13　小児の糖尿病	田中美郷 著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ　14　自閉症	村田豊久 著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ　15　小児の心身症	河野友信 著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ　20　夜尿症	三好邦雄 著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋 共編	医学書院
44	事例検討と看護実戦	外口玉子 編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子 編	パオパブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄 編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司 著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄 編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良 共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典	……	メディカルビュー
53	増補版　精神医学辞典	加藤正明 共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭 編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫 著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫 共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫 共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫 共編	医学書院

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
59	精神衛生のための１００か条	中沢正夫著	創造出版
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科　MOOK　3　覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科　MOOK　4　境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科　MOOK　6　思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科　MOOK　8　老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森　温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上　仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー　Ⅰ　精神療法の基礎	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー　Ⅱ　精神分析の治療機序	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー　Ⅲ　フロイトの治療技法論	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー　Ⅴ　発達とライフサイクルの視点	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年　1（上）　中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年　1（下）　中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年　2　中高年女性学	旗野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年　3　収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年　4　老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
89	日本の中高年　5　中高年にみる生活危機	本村　汎　共編	垣内出版
90	日本の中高年　6　病める老人を地域でみる	前田信雄　著	垣内出版
91	ニュー　セックス　セラピー	野末源一　訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二　編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子　著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄　共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二　訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田　勉　訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎　著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎　編	中央法規出版
99	森田正馬全集　1	森田正馬　著	白揚社
100	森田正馬全集　2	森田正馬　著	白揚社
101	森田正馬全集　3	森田正馬　著	白揚社
102	ユキの日記	笠原　嘉　編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介　訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川　中　共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦　共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子　編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治　著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫　共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田　晋　著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久　編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫　編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君士　著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫　著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝　監訳	医学書院

63年度以降購入分

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
1	現代精神医学大系　1A　精神医学総論Ⅰ		中山書店
2	現代精神医学大系　1B1a　精神医学総論Ⅱa1		中山書店
3	現代精神医学大系　1B1b　精神医学総論Ⅱa2		中山書店
4	現代精神医学大系　1B2　精神医学総論Ⅱb		中山書店
5	現代精神医学大系　1C　精神医学総論Ⅲ		中山書店
6	現代精神医学大系　2A　精神疾患の成因Ⅰ		中山書店
7	現代精神医学大系　2B　精神疾患の成因Ⅱ		中山書店
8	現代精神医学大系　2C　精神疾患の成因Ⅲ		中山書店
9	現代精神医学大系　3A　精神症状学Ⅰ		中山書店
10	現代精神医学大系　3B　精神症状学Ⅱ		中山書店
11	現代精神医学大系　4A1　精神科診断学Ⅰa		中山書店
12	現代精神医学大系　4A2　精神科診断学Ⅰb		中山書店
13	現代精神医学大系　4B　精神科診断学Ⅱ		中山書店
14	現代精神医学大系　5A　精神科治療学Ⅰ		中山書店
15	現代精神医学大系　5B　精神科治療学Ⅱ		中山書店
16	現代精神医学大系　5C　精神科治療学Ⅲ		中山書店
17	現代精神医学大系　6A　精神症と心因反応Ⅰ		中山書店
18	現代精神医学大系　6B　精神症と心因反応Ⅱ		中山書店
19	現代精神医学大系　8　人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系　9A　躁うつ病Ⅰ		中山書店
21	現代精神医学大系　9B　躁うつ病Ⅱ		中山書店
22	現代精神医学大系　10A1　精神分裂病Ⅰa		中山書店
23	現代精神医学大系　10A2　精神分裂病Ⅰb		中山書店
24	現代精神医学大系　10B　精神分裂病Ⅱ		中山書店
25	現代精神医学大系　12　境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系　15A　薬物依存と中毒Ⅰ		中山書店
27	現代精神医学大系　15B　薬物依存と中毒Ⅱ		中山書店
28	現代精神医学大系　18　老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系　23A　社会精神医学と精神衛生Ⅰ		中山書店
30	現代精神医学大系　23B　社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
31	現代精神医学大系　23C　社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系　24　司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系　25　文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門（正続）	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレペリンの精神医学1巻　精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレペリンの精神医学2巻　躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレペリンの精神医学3巻　心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理全　1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理全　2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理全　3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理全　4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理全　5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児（者）の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1．子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3．発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7．発達の保障と教育		岩波書店
60	分裂病の精神病理4	荻野恒一編	東京大学出版会

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
61	青年の精神病理　1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘　文　堂
62	青年の精神病理　2	小比木　啓　吾　編	弘　文　堂
63	青年の精神病理　3	清水将之・村上靖彦編	弘　文　堂
64	講座　生活ストレスを考える　1．生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣　内　出　版
65	講座　生活ストレスを考える　2．生活環境とストレス	山　本　和　郎　編	垣　内　出　版
66	講座　生活ストレスを考える　3．家族生活とストレス	石　原　邦　雄　編	垣　内　出　版
67	講座　生活ストレスを考える　4．職場集団にみるストレス	坂　本　　弘　編	垣　内　出　版
68	講座　生活ストレスを考える　5．学校社会のストレス	安　藤　延　男　編	垣　内　出　版
69	メラニークライン著作集1．子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠　信　書　房
70	メラニークライン著作集3．愛、罪そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠　信　書　房
71	メラニークライン著作集4．妄想的・分裂的世界	責任編訳・小比木啓吾・岩崎徹他	誠　信　書　房
72	メラニークライン著作集6．児童分析の記録I	山　上　千　鶴　子　訳	誠　信　書　房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見　上	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘　文　堂
75	無意識の発見　下	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘　文　堂
76	新しい子ども学　3巻　1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海　鳴　社
77	新しい子ども学　3巻　2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学　3巻　3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集　1　児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集　2　自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集　3　家庭なき幼児たち・上	中　沢　たえ子　訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集　4　家庭なき幼児たち・下	中　沢　たえ子　訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集　5　児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集　6　児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集　7　ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲典訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集　8　ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲典訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集　9　児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集　10　児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学　2　パーソナリティ		岩　波　書　店
90	異常心理学講座4巻　1　学派と方法	上原徹郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	み　す　ず　書　房

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
91	異常心理学講座　3　人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座　4　神経症と精神病 1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座　5　神経症と精神病 2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集　1 精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集　2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集　3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・臺弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学　1 巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学　2 巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学　4 治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学　5 正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学　6 心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学　7 意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学　8 境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学　10精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学　11脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学　12貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学　13「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること　かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的倒錯　（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱　（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	描画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社
120	家族療法　（ジェィ・ヘイリィ著）	佐藤悦子訳	川島書店

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
121	夫婦家族療法Ⅰ（Dグリック　D・Rケスラー著）	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巌・荒井元傳編	ミネルヴァ書房
126	日常性の精神医学（ヴァン・デン・ベルグ著）	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念　（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接　（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋條治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学　（P・シルダー著）	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波　心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄盗訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでもの精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析１　母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析２　父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析３　エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析４　攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析５　夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析６　創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析７　病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析９　子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10　青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
150	日本人の深層分析11　老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書　　名	著、編、訳、者名	出版社名
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士　編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー　生きられる時間　1	中江育生・清水誠　訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー　生きられる時間　2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー　精神分裂病	村上仁　訳	みすず書房
159	異常心理学講座　第9巻	上野雄一・荒川紘・宮本忠雄・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレペリン <精神医学>2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修　加藤伸勝	医学書院
165	PS.Powers,RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編　ハンドブックグループワーク	馬場禮子　監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司　編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・武場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー　裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット　子どもと家庭	牛島定信　監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・藤沢千尋・黒田夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子　編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンスインターナショナル
178	生活と福祉　別冊事例集　アルコール依存症および精神障害特集		全国社会福祉協議会
179	パトグラフィ双書3　宮沢賢治	福島章	金剛出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
180	パトグラフィ双書6　ドフトエフスキー	荻野恒一	金剛出版
181	パトグラフィ双書8　ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	パトグラフィ双書9　志賀直哉	鹿野達男	〃
183	パトグラフィ双書10　川端康成	稲村博	〃
184	パトグラフィ双書12　高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK　2　家族精神医学	編集企画　西園昌久	金原出版
186	〃　5　アルコール関連障害	〃　加藤正明	〃
187	〃　9　精神分裂病の治療と予後	〃　山下格	〃
188	〃　11　身体疾患と精神障害	〃　原田憲一	〃
189	〃　12　対人恐怖症	〃　高橋徹	〃
190	〃　13　躁うつ病の治療と予後	〃　更井啓介	〃
191	〃　14　青少年の社会病理	〃　藤原豪	〃
192	〃　15　精神療法の実際	〃　吉松和哉	〃
193	〃　16　自殺	〃　春原千秋	〃
194	〃　17　法と精神医療	〃　逸見武光	〃
195	〃　18　家庭と学校の精神衛生	〃　山田通夫	〃
196	〃　19　森田療法－理論と実際	〃　大原健士郎	〃
197	〃　20　精神科救急医療	〃　山崎敏雄	〃
198	〃　21　睡眠の病態	〃　菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・木城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆　編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著　分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著　分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	〃 ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南裕子他編	〃
215	〃 ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	〃 ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	〃 ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明 監・村田信男・藤川克徳編	〃
218	〃 ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	〃 ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	〃
220	〃 ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	〃 ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	〃 ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斉三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 Ⅰ 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 Ⅱ 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 Ⅲ 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 Ⅳ 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 Ⅴ イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex Ⅰ 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	〃 2 私の表現病理学	〃	金剛出版
237	〃 3 描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
240	過食の病理と治療	下坂幸三　編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である　H.S　サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出　J.レフ　C.ヴォーン著	三野善央、牛島定信　訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子　監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一　監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際　I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際　II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開　ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子　訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野　裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	……	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2　登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	上居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望（青年期）	鑪幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ　G.R.パターソン	大渕憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補　精神発達と精神病理	北田孫之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田眞	医学書院
264	医学モデルを超えて　E.G　ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4　強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期　美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談	……	㈳日本公衆衛生協会
269	人と場をつなぐケア	外口玉子	医学書院

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
270	精神分裂病研究の進歩	藤　縄　　昭	星和書店
271	「家族」と治療する	石　川　　元	未　来　社
272	初期分裂病	中　安　信　夫	星和書店
273	自己愛と境界例　J.F　マスターソン著	富山幸佑、尾崎新　訳	星和書店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術　L.S.グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志　訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高　木　四　郎	慶応通信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木　時　雄	弘　文　堂
278	新版　精神衛生	小杉正太郎　編著	川島書店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会　編	保健同人社
280	メンタルヘルス	加　藤　正　明	創　元　社
281	ライフサイクル精神医学	西　園　昌　久	医学書院
282	コーフト自己心理学セミナー　1　ミリアム・エルソン編	伊藤　洸　監訳	金剛出発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医学書院
284	青年期の精神科臨床	清　水　将　之	金剛出版
285	ブロイラー精神医学総論	切　替　辰　哉	中央洋書出版
286	生涯発達学　R.Mラーナー　N.Aブッシュ　コスナガール編	上田礼子　訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一　編集 横浜いのちの電話　調査研究部　編	川島書店
288	地図は現地ではない	中　沢　正　夫	萌　文　社
289	岩波講座　子どもの発達と教育4　幼年期発達段階と教育1	……	岩波書店
290	精神医学の臨床研究　サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾　訳	みすず書房
291	治療のダイナミックス	鞍俊一、渡辺登	岩波書店
292	心理療法の諸原則　上　I.Bワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
293	心理療法の諸原則　下　I.Bワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
294	錯覚と脱錯覚	北　山　　修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸　田　俊　彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新　曜　社
297	分裂病の精神病理　16	土　居　健　郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長谷川　洋　三	三笠書房
299	一般医のための森田療法	樋　口　正　元	太陽出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本　収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信　著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優　訳	金剛出版
304	無意識1　無意識へのプロレゴーメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2　無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3　神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4　無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5　無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 ダニエル、パウル シュレーバー著	渡辺哲夫　訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田晋	思索社
311	分裂病と他者	木村敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田専	新潮選書
313	思春期精神保健相談	……	㈳日本公衆衛生協会
314	死に急ぐ子供たち　シンシア、R.フェファー	高橋祥友　訳	中央洋書出版部
315	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
316	妻が危ない	池田由子	〃
317	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
318	老いのソウロロギー（魂学）	山中康裕	有斐閣
319	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本　訳	星和書店
320	老人虐待	金子善彦	星和書店
321	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
322	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
323	十代の四季	上田基	ミネルヴァ書房
324	児童精神保健	島田照三　森田啓吾 横山桂子　著	ミネルヴァ書房
325	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾　渡辺久子編	ミネルヴァ書房
326	老人福祉とは何か	一番ケ瀬康子　十古林佐知子著	
327	高齢化社会と介護福祉	一番ケ瀬康子 仲村優一　北川隆吉編	ミネルヴァ書房
328	現代人の精神異常	福田哲雄　著	ミネルヴァ書房
329	ゆれうごく家族	金田利子　杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
330	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
331	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
332	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
333	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
334	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
335	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
336	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
337	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑　尾崎新著	星和書店
338	小児精神医学	新井清二郎　長畑正道他著	中山書店
339	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
341	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング　B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
342	異常心理学講座⑥	土居健郎　笠原嘉 宮本忠雄　木村敏責任編集	みすず書房
343	中井久夫著作集　1　分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
344	〃　2　治療	〃	〃
345	〃　3　社会・文化	〃	〃
346	〃　4　治療と治療関係	〃	〃
347	〃　5　病者と社会	〃	〃
348	〃　6　個人とその家族	〃	〃
349	〃　別巻1　中井久夫共著論文集	山中康裕編	〃
350	〃　別巻2　H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	〃
351	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
352	職場と心の健康　①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也　小此木啓吾　武田専監修	東海大学出版会
353	〃　②企業と中高年	〃	〃
354	〃　③企業と家族	〃	〃
355	〃　④企業と転勤	〃	〃
356	〃　⑤個人と性格	〃	〃
357	安永治著作集　1ファントム空間論	安永治	金剛出版
358	〃　2ファントム空間論の発展	〃	〃
359	〃　3方法論と臨床概念	〃	〃

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
360	精神科リハビリテーションの実際　1	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	〃　　2	〃	〃
362	精神科難治療例　私の治療	融　道　男　編	中外医学社
363	これからの精神保健・精神医療	谷　中　輝　雄　編	やどかり出版
364	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
365	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
366	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
367	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD
368	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
369	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS

定期刊行物

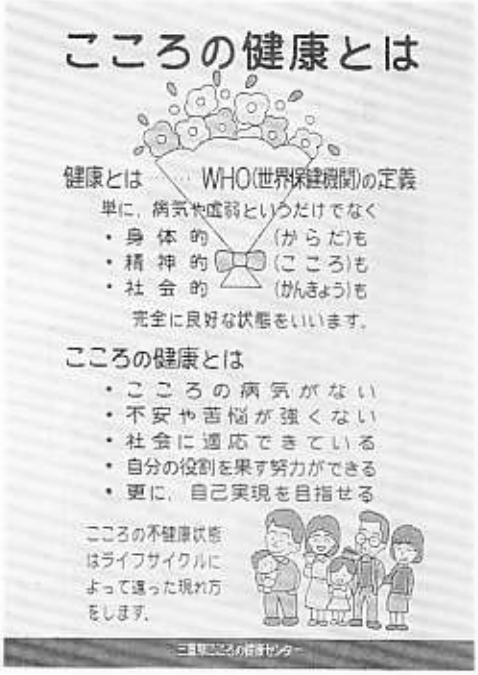
精神医学	医学書院
社会精神医学	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャル　ワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
季刊ゆうゆう	朗文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
精神医療	悠久書房
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論（Vol32 No1～4，Vol33 No1～4）	心理学評論刊行会
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
IYDP　情報	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会
BOX－916	ボックス　916
心理臨床	星和書店

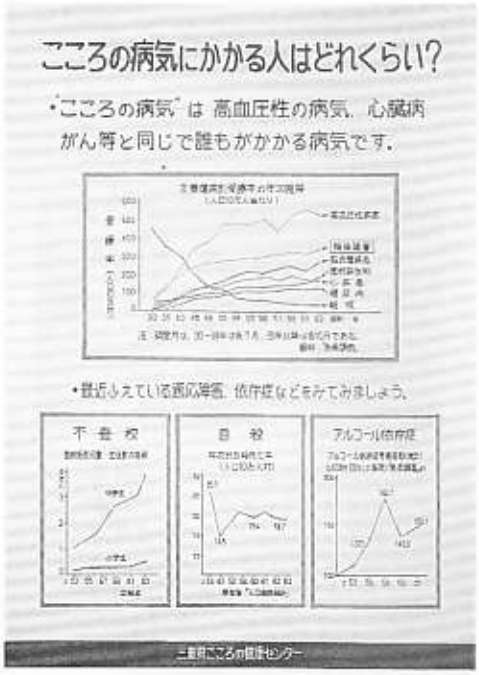
ビデオテープ

マイクロカウンセリングⅠ　基本的かかわり技法　前編
〃　Ⅱ　〃　後編
老人ボケを防ぐには
社会人としての言葉使いの基本
作業療法　生活を拡げる治療と援助
老人と飲酒
アルコールと循環器
肝臓とアルコール代謝
あと一杯が飲めるか
与越市つくしの里の実践から
地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する
こころの病をかかえて ── 精神障害者は今
病院を出て街で働きたい　報道特集（1987年）
君は空の青さを知っているか ── 精神障害者が地域で生きていくために

Ⅳ．精神保健啓発用パネル一覧

Ⅰ．こころの健康シリーズ





こころとからだ

"こころ"と"からだ"を別々のもの…と思っていませんか？
"こころ"と"からだ"はつながっています。お互いのバランスが大切なのです。
"こころの問題"は"からだの病気"を引き起こす要因の1つです。

"こころ"に原因があって"からだ"の症状を示す代表的なものには下図のようなものがあります。

1	循環器の病気	高血圧症・低血圧症・狭心症
2	呼吸器の病気	気管支喘息・過換気症候群
3	消化器の病気	胃・十二指腸潰瘍
4	内分泌・代謝の病気	肥満症・糖尿病
5	神経の病気	片頭痛・筋緊張性頭痛
6	泌尿器の病気	夜尿症・インポテンス・過敏性膀胱
7	骨・筋肉の病気	全身性筋痛症・書痙・慢性関節リウマチ・チック
8	皮膚の病気	円形脱毛症・多汗症・慢性じん麻疹・湿疹
9	産婦人科の病気	月経困難症・更年期障害・不妊症
10	小児科の病気	起立性調節障害・周期性嘔吐症・心因性発熱
11	眼科・耳鼻科・口腔外科の病気	眼精疲労・メニエール症候群・アレルギー性鼻炎

三重県こころの健康センター

生活環境とストレス

最近ストレスで、体や心の不調を訴える方が増えています。

職場・学校

仕事や、受験勉強に追われ、ゆとりのない生活　いきぬきを上手にして能率アップ

地　域

隣の人は何する人ぞ…地域でのふれあいが少なくなっています。まつりやグループに参加して一緒になにか…

家　庭

家族がスレちがいの生活…少ない時間でも中味の濃い交流を！

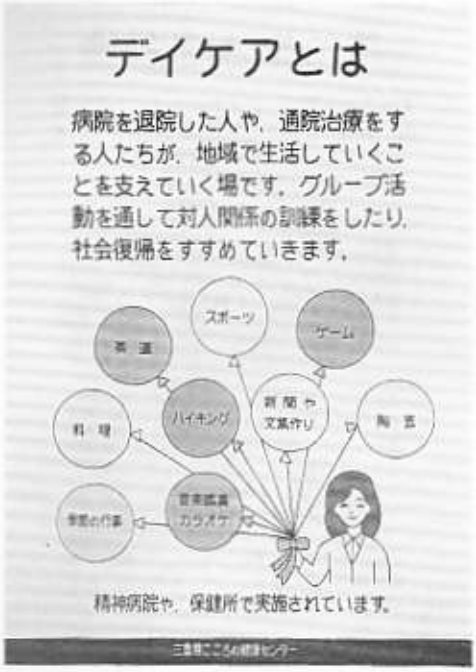
三重県こころの健康センター

ライフサイクルと心の病

三重県こころの健康センター

Ⅱ．社会復帰シリーズ

社会復帰のための4要素
精神障害者の人が再発をせず、地域で暮らしていくためには4つの要素が必要です。
家族の支え
・本人の病気や、気持を理解し支える。
適正な医療
・主治医の先生との信頼関係のもとに継続した治療をする。
・なおりたい
社会復帰したいという
本人の意欲
地域の支え
・本人の状態に合った通える場（デイケア、作業所等）がある
・家族以外にも支えてくれる人（専門家、ボランティア、近所の人）がいる
・地域の人が病気を正しく理解している
三重県こころの健康センター


デイケアとは
病院を退院した人や、通院治療をする人たちが、地域で生活していくことを支えていく場です。グループ活動を通して対人関係の訓練をしたり、社会復帰をすすめていきます。
スポーツ
ゲーム
茶道
料理
ハイキング
新聞や文集作り
陶芸
音楽鑑賞
カラオケ
家庭の作業
精神病院や、保健所で実施されています。
三重県こころの健康センター

共同作業所とは
精神障害者が、社会で自立していくためのトレーニングの場です。
仕事の場
くつろぎの場
本格的な就労をするために大切なステップにもなっています。
家族会やボランティアの人達の協力のもとにお互いに、支え合いながら、作業をします。
三重県こころの健康センター

家族会活動
家族会は・・・・精神障害者の家族の集まりです。力を合わせ障害者の医療と福祉の向上をめざし、活動をしています。
・家族同志、精神的に支え合う交流の場です。
・社会への啓発、制度の改善に取り組んでいます。
・病気について学び、理解を深め医療への協力をしています。
・共同作業所、共同住居など家族同志で実行できる自助活動を行なっています。
（保健所単位）
地域家族会
（病院単位）
病院家族会
三重県精神障害者家族連合会（三家連）
事務局　久居市桜神町2501-1
三重県こころの健康センター内
TEL　0592-5-2151
全国精神障害者家族会連合会（全家連）
事務局　東京都台東区下谷1-4-8
TEL　03-3845-5064
三重県こころの健康センター

共に生きる社会

「すべての人間は、生まれながらにして、自由であり、尊厳と権利において平等である。」
（世界人権宣言　1条　1948）

「おとしよりも若者も、障害者もそうでない者も、人間としてあたりまえの生活を送るため、あらゆる人々が地域社会の中でともに暮らし、ともに生きぬくような社会こそノーマルであり、おとしよりや障害者の施設をつくり、しかも遠くへ隔離、分断するような社会は、アブノーマルである。」といわれています。
「あらゆる人々が社会の一員として、権利と義務を担い、共に暮らし、共に生きぬく」ような地域づくりが必要です。

三重県こころの健康センター

社会復帰のための社会資源

1. 制　度

・通院患者リハビリテーション事業（職親制度）

障害により就労が困難な方に協力事業所（職親）の理解と支援により実際に事業所で働くことによって社会適応訓練を行います。

・通院医療費公費負担制度

通院医療を促進するため通院している方の医療費が2分の1公費で負担されます。

・精神障害者証明書交付事業

障害年金を受給されてない方でも証明書の交付を受けることにより

・所得税の控除
・相続税の控除
・住民税の非課税及び控除
・自動車税の減免
等があります。

*詳しくは最寄りの保健所保健予防課、又は県保健予防課精神保健係へお問い合わせ下さい。

三重県こころの健康センター

社会復帰のための社会資源

2. 施設と活動

社会資源の種類		活動内容
保健所		精神保健相談、訪問指導、デイケアを行なっています。
社会復帰施設	授護寮	日常生活が困難で、生活の場がなく、社会復帰を希望する方が利用できます。
	福祉ホーム	自活能力を持っているが、住宅確保が困難な方が利用できます。
	通所授産施設	雇用されることが困難で、将来就労を希望する方が利用できます。
共同作業所		自立にむけてのトレーニングの場です。
家族会		障害者の福祉と福祉の向上をめざし活動している家族の集まりです。
回復者クラブ		回復途上にある障害者の集まりで、社会復帰をめざし自助活動を行なっています。
ボランティア		個性、技能を生かして、いろんな所でさまざまな協力をしています。

三重県こころの健康センター

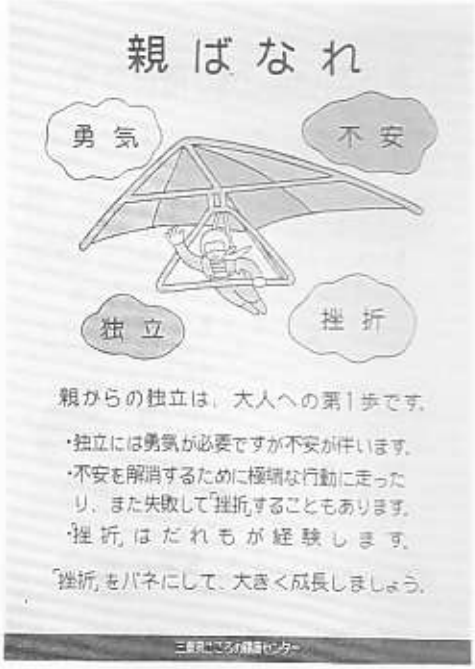
ボランティア活動

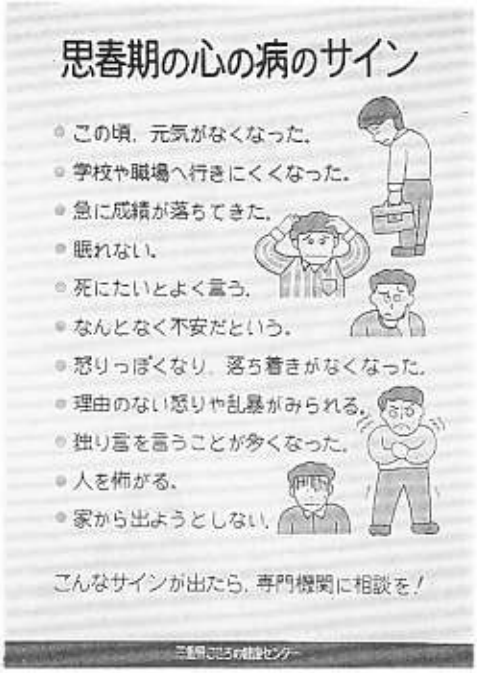
ボランティアは各自の持っている個性、技能を生かして、心の悩みを持った人、回復途上の障害者、家族の方々と交流し、さまざまな協力をします。

こころの健康センターでは、精神保健ボランティアを希望される方々に、精神保健に関する知識等を身に付けていただく、ボランティア教室を開設しています。

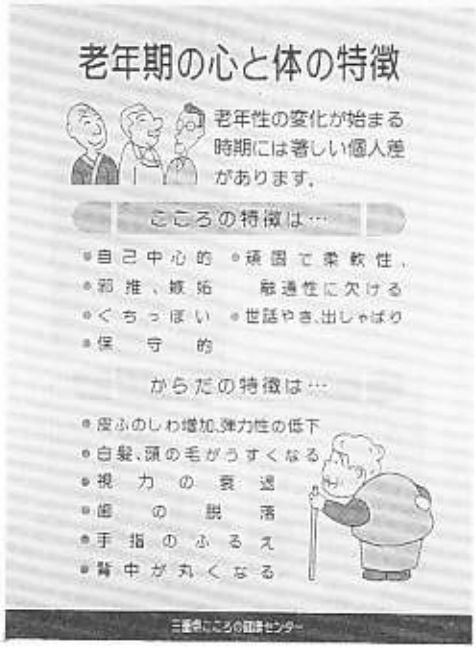
三重県こころの健康センター

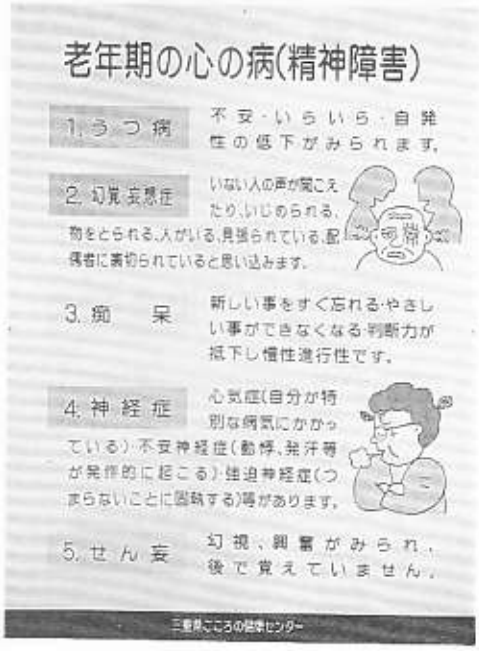
Ⅲ．（ライフサイクル）思春期シリーズ





Ⅳ．（ライフサイクル）老年期シリーズ





痴呆とは ①

脳の種々の器質的な障害のため

―― などの ――

知的機能の低下した状態をいいます。
健康な老人の「もの忘れ」は
脳の生理的な老化によるもので
痴呆とは異なります。

三重県こころの健康センター

痴呆とは ②

痴呆性老人は

- もの忘れがひどくなる（記憶障害）
- 場所や人がわからなくなる（見当識障害）
- 夜になると騒く（夜間せん妄）
- むやみに歩きまわる（徘　　徊）
- 排泄が自覚できない（失　　禁）
- 被害妄想をいだく

などの心の症状や問題行動があり、
一人で日常生活を営むのに支障を
きたし介護が必要となります。

三重県こころの健康センター

仮性痴呆

痴呆ではないのに一見痴呆のように見える状態で、本態は老人性うつ病です。

うつ病でも、意欲が低下したり、思考力集中力が減退して、もの憶えが一時的に悪くなるためです。
周囲だけでなく、本人もボケたと思い混乱することがありますが、治療すれば必ず良くなります。

早めに専門医に受診することが大切です。

三重県こころの健康センター

痴呆の予防

"ぼけ"には予防できるもの（脳血管性…脳出血、脳梗塞）と予防がむつかしいもの（アルツハイマー型）があります。

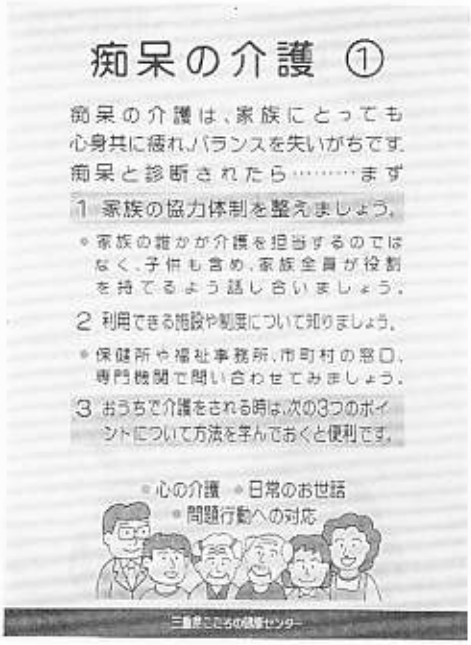
からだ　動脈硬化の予防が最大のポイントです。

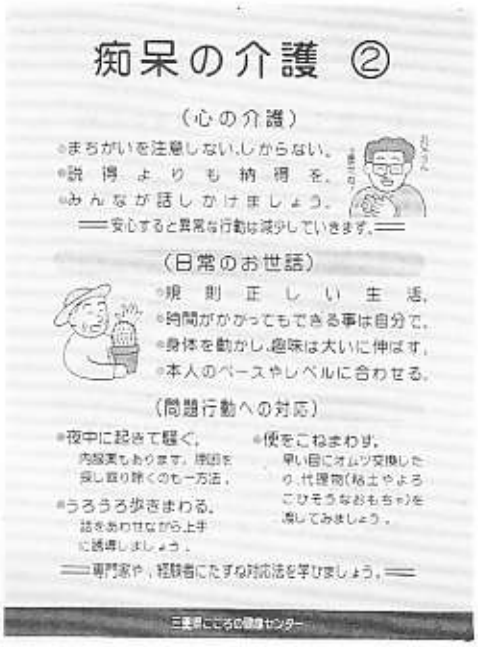
- 栄養バランスのとれた食事をしましょう。
- 毎日体を使いましょう。（体が動くと脳も動きます）
- タバコ、多量のアルコールは動脈硬化をすすめます。
- 成人病等のチェックを定期的に受けましょう。

こころ　使わなければ頭はサビます。
―― 頭をどんどん使いましょう。――

- 積極的に活動的な生活をしましょう。
- 家の内外でも自分の役割を持ちましょう。
- 熱中できる趣味を持ちましょう。
- 体の病気やケガをしないようにしましょう。
- 必要以上に自分をせめる事はやめましょう。

三重県こころの健康センター





これらのパネルは貸出しをしております。詳しくはセンターまでご連絡下さい。

縦105cm×横75cm

平成三年度版　三重県こころの健康センター所報

平成5年2月発行

三重県こころの健康センター
（三重県精神保健センター）

〒514－11 久居市明神町2501－1
三重県久居庁舎1階
電話　0592－55－2151